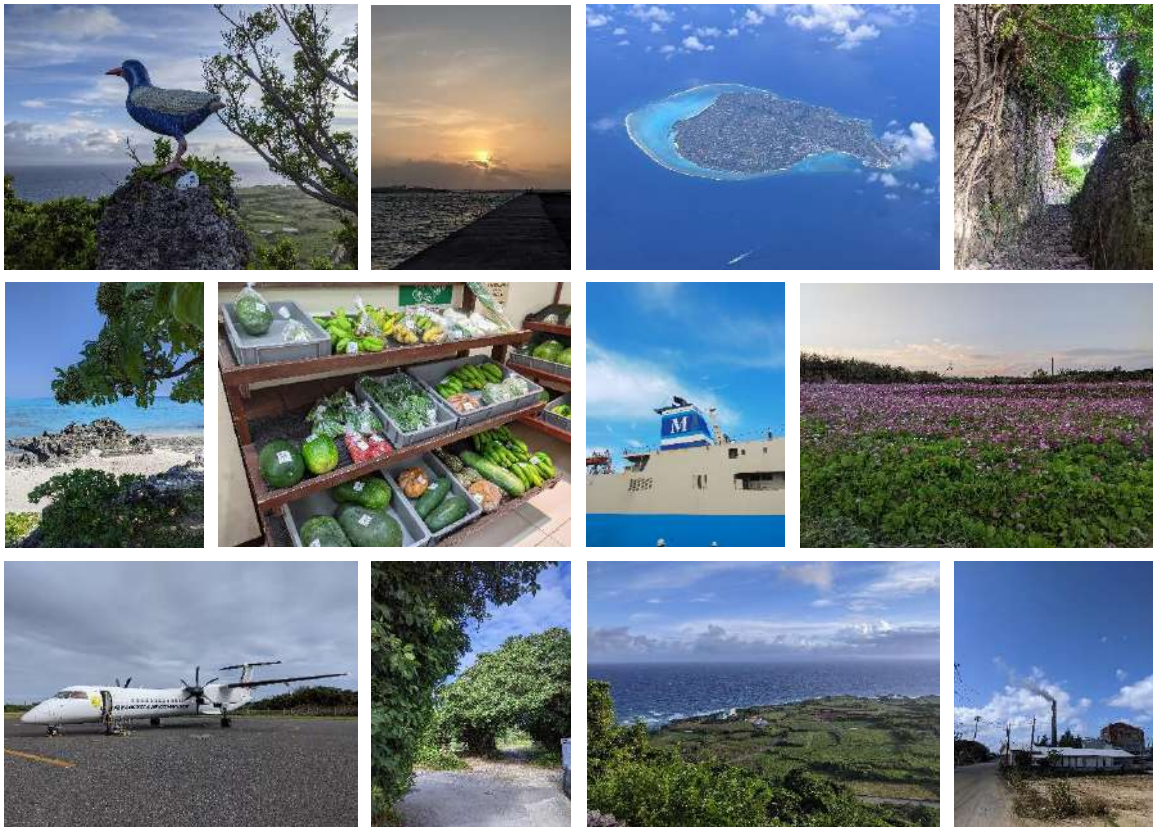


与論町観光振興計画 計画書



令和4年3月
一般社団法人ヨロン島観光協会

目次

はじめに

第1章 観光振興計画について

1-1	計画策定の背景と経緯	1
1-2	計画策定の主旨と目的	1
1-3	計画の位置づけと計画期間	2
1-4	計画策定の概要	2

第2章 与論町の概況

2-1	位置と地勢、気象	4
2-2	人口と産業	4
2-3	交通	6
2-4	歴史と文化	6

第3章 与論町の観光の課題

3-1	観光協会会員アンケート調査より	8
3-2	交流人口動態調査より	20
3-3	検討委員会の意見より	26

第4章 与論町観光振興計画

4-1	基本理念	31
4-2	基本方針	32
4-3	基本施策	33
4-4	アクションプランとロードマップ	42
4-5	計画の体系図	53
4-6	KGI、KPI指標と与論島の観光受入れ容量	56

第5章 計画の実現へ向けて

5-1	検証方法	60
5-2	検証体制	60

参考資料

参考資料1	観光協会会員アンケート調査票
参考資料2	観光協会会員アンケート「その他」の自由記述一覧
参考資料3	与論町観光振興計画策定委員会 委員名簿

はじめに

2020年に発生した新型コロナウイルスによる世界的なパンデミックにより、本町への来訪者数は大幅に減少し、基幹産業のひとつである観光産業は深刻な打撃を受けています。一方で、コロナ渦ではそれまでの常識が根本から覆され、人々の仕事や生活のスタイルも大きな変容を遂げました。観光の嗜好やスタイルにも大きな変化が生じており、今まさに大きな転換点を迎えているといっても過言ではありません。

さて、本町の観光を振り返ると、1970年代には離島ブームや「さいはての島」として脚光を浴び、空港や港等の交通インフラの整備と相まって、年間15万人を超える入込客数を記録し、急激な観光ブームに沸きました。しかし、その後は余暇嗜好の変化や海外旅行ブームなどにより年々観光客の減少が続き、2012年には約5万人までに落ち込みました。その後、絶景ブームなどの影響によりメディア露出が増えたことで再注目され2013年から再び増加に転じ、コロナ前には7万人を超えるまでに回復を見せたところであります。

かつて、本町でおきた観光ブームは大きな経済効果をもたらし、人口増加やインフラ整備が進んだ一方で、ゴミや騒音問題、開発に伴う自然破壊のほか、最盛期に相次いで建設された観光施設の一部が廃墟化し景観に影響を与えるなど、負の一面も残しました。同様に、各地の観光地においても大規模な観光開発や受入容量を超えて押し寄せる観光客による「オーバーツーリズム」が問題化しております。

本町では、今後の観光振興の見つめ直す中で、一過性の観光ブームではなく持続可能な観光に取り組む必要性を感じ、2021年より日本「持続可能な観光」地域協議会の設立に参画、「持続可能な観光の国際基準」(GSTC/The Global Sustainable Tourism Council)に基づく持続可能な観光地づくりに取り組み始めたところであります。

また、ヨロン島観光協会は1965年の設立以降、本町の観光事業者をまとめる中心組織として活動してまいりました。2019年には法人格を取得して一般社団法人となり、推進体制の充実・強化を図りつつ「観光地域づくり法人(DMO/Destination Management/Marketing Organization)」への登録をめざしております。DMOの役割は、自ら地域の観光戦略を策定し、多様なステークホルダーの参画を促しながら地域の稼ぐ力を創出するとともに、シビックプライドを醸成する観光地域づくりの舵取り役であります。

このような状況を踏まえ、この度、ヨロン島観光協会が主体となり、今後10年間の観光地づくりの道しるべとなる「与論町観光振興計画」を策定するに至りました。本計画の策定過程におきましては、今後10年間に本町の観光関連産業の中核となって活躍される様々な業種・分野の中堅・若手の皆様を策定委員に迎え、幾度の会議を重ねて、将来の目指すべき観光地の姿やそれを解決するために取り組むべき方策等について検討してまいりました。そのような過程を経て完成した本計画においては、GSTCの基本的理念に基づき、島の自然環境や歴史文化、人々の生活や生業を守りつつ、観光の力を最大限に活かした島内経済の活性化と町民や観光関連事業者の満足度の向上をめざす計画となっております。

今後の観光振興に当たりましては、この理念のもと、本観光振興計画を道標に町民の皆様のご理解をいただき、関係機関・団体と協働・連携しつつ取り組んでまいりたいと考えております。

皆様の深い御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本計画の策定にあたり、御尽力・御協力をいただきました策定委員の皆様方をはじめ、関係機関・団体すべての皆様に心から厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月31日

一般社団法人ヨロン島観光協会
代表理事 山下 哲博

第1章 観光振興計画について

1-1 計画策定の背景と経緯

2020年以降、世界的な規模で猛威を振るい続けている新型コロナウイルス感染症により、国内外の観光産業は大きな打撃を受けました。その一方、自由な移動ができなくなったために、行動変容やニューノーマルといわれる新たな生活スタイルや働き方に変化が生じ、ワーケーションやブレイジャーといった以前は注目度が低かった旅のスタイルに関心が寄せられています。また、コロナ禍前の旅行や観光のスタイルを見直すなかで、「地域における観光のあり方」について考える動きが各地で起きています。

与論島においてもコロナ禍は、町内の観光や宿泊事業者をはじめ、飲食、物販等の広範な産業分野に影響を及ぼしているなかで、(一社)ヨロン島観光協会の会員をはじめとする多くの与論町民や与論町役場が、持続可能な観光地域づくりに取り組む契機となりました。その一環として、観光庁が推奨する「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」にもとづく研修会や、グリーンディステーションのための島内全体の環境整備により、与論島の持続可能な観光地域づくりへの意識醸成が始まっています。

与論島の観光振興を考えるうえで、従来の各種の取組を踏まえながら、島の環境を保護・保全し、地域の負担を軽減する持続可能な観光の推進に取り組む必要があります。

新型コロナウイルス感染症は未だ収束していませんが、本計画の策定ではコロナ禍の収束後を視野に、島の次世代の観光の担い手の意見を広く収集し、議論を重ねながら、今後10年間の与論島の観光振興へ向けた具体的な取り組みと実施主体を明確にすることを目指しました。

1-2 計画策定の主旨と目的

本計画の上位計画は、与論町が策定している総合振興計画になります。上位計画の方向性に沿って、与論島の「観光」で何を目指し、どのような方針を掲げ、どのような方策を展開していくのかといった、**令和4年度から10年間の与論島の観光振興のために、いつ、誰が、何をするのか？を明確にすること**を主旨としています。

また、計画の策定主体である(一社)ヨロン島観光協会は与論島の観光推進団体として、与論島の観光振興では重要な役割を果たしている組織であり、同組織が計画中で果たす役割を中心に記載しています。

本計画の目的は、与論島を訪れる多くのお客様の快適性や利便性をより良いものにすることで満足度と島全体の観光の品質を向上させること、島の基幹産業の1つである観光産業の持続性を維持するために(一社)ヨロン島観光協会の会員である島内観光事業者や観光関連事業者の労働環境の改善と生産性の向上に資する体制や仕組みを整え、次世代の観光産業の担い手を確保することとしています。

1-3 計画の位置づけと計画期間

本計画は、与論町が策定する第6次総合振興計画を上位計画として策定するものです。

与論島は、観光が基幹産業の1つではありますが、これまで観光振興を目的とする計画が広く公開されてこなかったため、本計画の策定にあたっては計画を広く公開し、与論島の観光振興について島内外へ向けた方針や具体策を明示することとあわせて、計画を実現するための（一社）ヨロン島観光協会を中心とする官民の関係者との連携のもと、体制整備や検証方法についても言及することとしました。

計画期間は10か年とし、上位計画である与論町第6次総合振興計画の検証と同タイミングで本計画の検証や計画内容の見直しをあわせて行うこととしています。

1-4 計画策定の概要

本計画の策定では、（一社）ヨロン島観光協会の会員より、与論島の次世代の観光産業の担い手となる 30～40 代の観光事業者および観光関連事業者を委員に「与論町観光振興計画策定委員会」を設置し、令和 3 年 9 月より議論と検討を重ねるものとししました。以下に、計画策定の概要を示します。

- ・策定期間：令和3年9月～令和4年3月の6か月とし、全体会議を3回、分科会を6回程度開催
- ・策定主体：一般社団法人ヨロン島観光協会、策定協力：与論町商工観光課、与論町総務企画課
- ・計画期間：令和4年度から10年間
- ・検証期間：検証期間はコロナ禍からの観光復興や観光産業の状況変化の速さを勘案し、DMO の事業の一環として事業評価と併せた検証を行う。検証と計画内容の見直しは、与論町総合振興計画と同タイミングで実施。
- ・策定委員会の構成：委員長は観光協会長とする。全体会議と3つの分科会形式の構成とする。
- ・会議の構成：全体会議は、全策定委員が参加し各分科会の意見や情報共有と計画全体について議論する。分科会は「飲食・特産品」「アクティビティ・体験」「宿泊・交通」の3テーマとし、観光協会副会長が分科会長となり、各分科会の委員は、分科会のテーマに関連する観光協会員5～6名が担う。

会長	（一社）ヨロン島観光協会長		
全体会議	全委員が参加		
分科会テーマ	飲食・特産品	アクティビティ・体験	宿泊・交通
分科会長	（一社）ヨロン島観光協会副会長3名で分担		
分科会委員	飲食、特産品事業者 5名	アクティビティ・体験事業者 6名	宿泊・交通事業者 5名

- ・会議開催の留意点：会議は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み対面と on-line の併用で開催。

・会議開催スケジュール:

会議名	開催日時
全体会議	●第1回 全体会議- kickoff - 令和3年9月15日(水) ●第2回 全体会議 令和3年12月26日(日) ●第3回 全体会議 令和4年3月28日(月)
分科会	●第1回 分科会- kickoff - 令和3年9月16日(木) 3テーマとも同日開催 ●第2回 分科会 令和3年11月26日(金) / 宿泊・交通、体験・アクティビティ 令和3年11月30日(火) / 飲食・特産品 ●第3回 分科会 令和3年12月23日(木) 3テーマとも同日開催 ●第4回 分科会 令和4年1月27日(木) / 体験・アクティビティ 令和4年1月28日(金) / 飲食・特産品、宿泊・交通 ●第5回 分科会 令和4年3月24日(木) / 宿泊・交通 令和4年3月25日(金) / 飲食・特産品、体験・アクティビティ

- ・その他の留意点:GSTC の観点より、策定する観光振興計画は与論町HP上に pdf データにて掲載し、印刷物の配布は行わない。

第2章 与論町の概況

2-1 位置と地勢、気象

与論島は、北緯 27 度 55 秒～27 度 3 分 55 秒、東経 128 度 23 分～128 度 28 分に位置する鹿児島県最南端の島です。与論島が属する奄美群島は、奄美大島から沖縄、台湾までの弓状の島々の連なりである琉球弧に位置しています。

与論島の北方 32.5km に鹿児島県沖永良部島、南方 23.0 km に沖縄県沖縄島があり、晴天時は、沖永良部島、沖縄島北部が目視できる距離にあります。



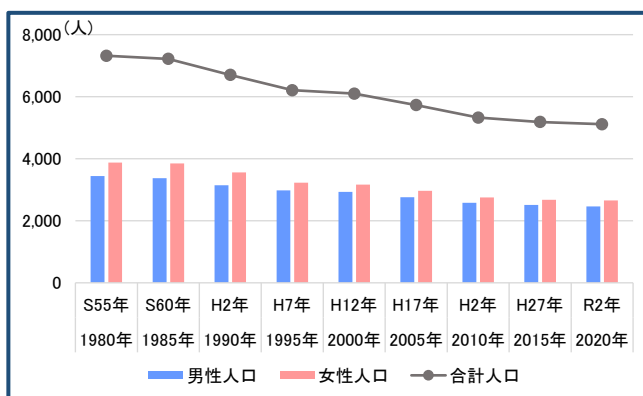
与論島の位置図

与論島の地勢は、周囲 23.7km、面積 20.58 km²、最高点標高 97.2m で、島全体が平坦な段丘状地形となっています。島の地質の大部分は、琉球石灰岩と基盤岩に由来する礫質部からなる琉球層群で構成され、島の周囲の殆どが幅約 0.5～1.0km の裾礁・堡礁の発達したサンゴ礁地形という地質的、地形的な特徴を見ることができます。与論島は亜熱帯に属しており、気候は年平均気温摂氏 23.1 度、年間降水量 1928.0 mm、年平均風速 5.3 m/s で、島内には常流河川が無く飲料水は地下水を利用しています。

地図出典：国土交通省国土地理院「日本全図」より <https://www.gsi.go.jp/chizuhensyu/chizuhensyu41009.html>

2-2 人口と産業

令和2年国勢調査より与論町の人口は5,115 人、平成27年に実施された前回の国勢調査結果の 5,186 人から 71 人減少し、増減率は-1.369%でした。「政府統計の総合窓口（e-Stat）」のサイト上で公開されている 1980(昭和 55)年以降の国勢調査結果をもとに与論町の人口の推移をまとめたものが以下の「与論町の過去40年間の人口推移」です。



与論町の過去40年間の人口推移

	(人)									
西暦	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	
和暦	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年	H2年	H27年	R2年	
男性人口	3,440	3,371	3,148	2,979	2,933	2,762	2,577	2,509	2,460	
女性人口	3,880	3,851	3,556	3,231	3,166	2,969	2,750	2,677	2,655	
合計人口	7,320	7,222	6,704	6,210	6,099	5,731	5,327	5,186	5,115	

国勢調査データ：総務省統計局「人口等基本集計 e-Stat」の数値をもとに作成

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>

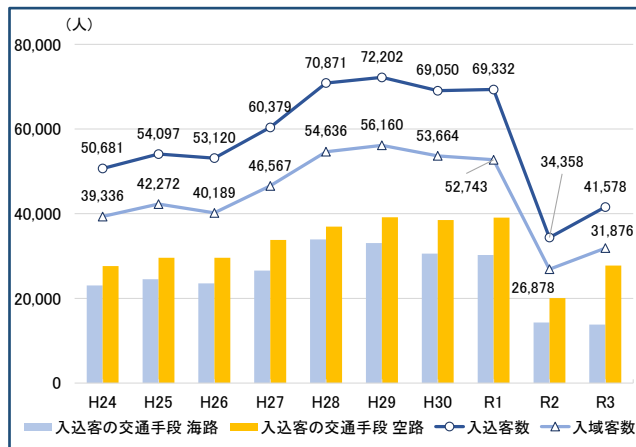
与論島の基幹産業の1つとして百合ヶ浜に代表される島の多くの海浜を使ったマリレジャーと島内に整備されている大規模リゾート施設による観光業が広く知られています。

コロナ禍前の与論島の観光客数は、「過去10年間の与論島の入込・入域客数推移」に示すように、2014(平成 26)年以降、顕著な増加傾向が見られました。その要因の1つに絶景ブームの発端となった書籍「死ぬまでに行きたい！世界の絶景-日本編-(2014 年/詩歩著)」に与論島の透明度の高い海の写真が取り上げられたことが挙げられ、海浜が与論島の重要な地域資源であることが分かります。

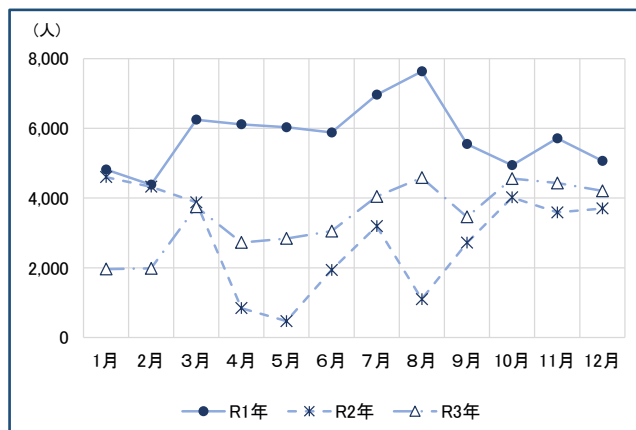
過去10年間の与論島の入込・入域客数推移（H24-R3）

(人)

	入込客数	入域客数	入込客の交通手段	
			海路	空路
H24	50,681	39,336	23,038	27,643
H25	54,097	42,272	24,522	29,575
H26	53,120	40,189	23,533	29,587
H27	60,379	46,567	26,559	33,820
H28	70,871	54,636	33,938	36,933
H29	72,202	56,160	33,057	39,145
H30	69,050	53,664	30,555	38,495
R1	69,332	52,743	30,254	39,078
R2	34,358	26,878	14,284	20,074
R3	41,578	31,876	13,832	27,746



与論島のコロナ禍前(R1 年)の月別来島者状況は、「与論島の月別入込客数の推移(R1-R3)」のとおり、7～8月の夏季が特に多く2月が最も少ない傾向となっており、年間を通じて一定数の観光客や来島者を呼び込むための観光客の平準化がコロナ禍前の課題でもありました。コロナ禍においては、全国的な感染者数の増減が与論島の客数にも反映されています。



与論島の月別入込客数の推移（R1-R3）

(人)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
R1年	4,817	4,382	6,247	6,115	6,029	5,880	6,964	7,633	5,547	4,941	5,711	5,066	69,332
R2年	4,602	4,324	3,876	841	469	1,934	3,191	1,098	2,719	4,017	3,587	3,700	34,358
R3年	1,962	1,982	3,748	2,724	2,838	3,049	4,043	4,584	3,456	4,557	4,430	4,205	41,578

入込客数は、(一社)ヨロン島観光協会、入域客数は、鹿児島県観光統計「奄美群島観光の動向」をもとに作成
<http://www.pref.kagoshima.jp/aq01/chiiki/oshima/chiiki/zeniki/oshirase/kankoutoukei.html>

観光の他には島内に多い平坦地を利用したサトウキビ栽培や肉用牛の飼育、サトイモ、インゲン、ニガウリ等の野菜類、キクやソリダゴ等の花卉類とともに、マンゴーやパッションフルーツ等の熱帯果樹栽培等による複合経営の農業も基幹産業の1つとなっています。

2-3 交通

与論島は、鹿児島本土から航路距離で 596 km、奄美大島から 215 km の南西海上に位置し、島へのアクセスは空路と海路があります。

空路は、鹿児島と那覇から航空機が 1 日 1 往復、奄美大島から 1 日 1 便（片道運航）、与論島～那覇は 1 日 2 便、与論島から奄美大島へのアクセスは那覇か鹿児島を経由する乗継便が 1 日 1 便就航しています。（令和 4 年 7 月現在）

海路は、貨客定期フェリーが、鹿児島からの下り便と那覇からの上り便が各 1 日 1 便、夏季の台風や冬季の時化等の荒天時以外は毎日運航しています。

島内移動の交通手段は、路線バスとタクシー、レンタカー、レンタバイクおよびレンタサイクルがあります。



与論島観光協会サイト掲載画像より「与論島へのアクセス」 <https://www.yorontou.info/access/>

与論町の空路と海路の現況（令和 4 年 7 月現在）

空路				海路（上り、下り毎日 1 便）			
区間		便数	所要時間	下り（鹿児島発）	所要時間	上り（那覇発）	所要時間
与論島～	鹿児島	1 日 1 便	約 1 時間 25 分	鹿児島～	約 19 時間 40 分	那覇～	約 4 時間 50 分
	那覇	1 日 2 便	約 40 分	奄美大島～	約 7 時間 50 分	本部～	約 2 時間 30 分
	奄美大島	乗継 / 1 日 2 便	約 2 時間 25 分※	徳之島～	約 4 時間	～ 沖永良部島	約 2 時間
鹿児島～	与論島	1 日 1 便	約 1 時間 35 分	沖永良部島～	約 1 時間 40 分	～ 徳之島	約 4 時間 20 分
那覇～		1 日 1 便	約 40 分	～ 本部	約 2 時間 30 分	～ 奄美大島	約 8 時間 20 分
奄美大島～		1 日 1 便	約 45 分	～ 那覇	約 5 時間 20 分	～ 鹿児島	約 20 時間 20 分

※奄美大島への所要時間は那覇経由の場合

2-4 歴史と文化

与論島は鹿児島県最南端の島であり、鹿児島本土よりも沖縄県や沖縄島北部との距離が近く、歴史・文化をはじめ交易や商取引、人的交流等でも沖縄・琉球とのつながりも強く、奄美群島内でも沖縄文化の影響が色濃く残る島です。

現代の与論島住民の暮らしでも、那覇をはじめとする沖縄県内への進学や通院、買い物、生活物資の仕入れ等の生活圏として、県境を越えた人流、物流が見られる生活環境にあります。

与論島内で見られる史跡や文化財等の歴史・文化関連の地域資源でも琉球関連のものが多く、島内で発掘調査が進められている与論城址は島を代表する文化財です。与論城は 1405～1416 年頃、琉球の北山王の三男王舅（オーシャン）により築城されましたが、建設途中で北山王が滅亡したため、未完成の城の遺構が残存しています。与論城址は石垣に特徴が見られ、三層に連なる断崖と城を結び延長約 500m にわたって築造され、石垣北端から南東までの約 200m は伏龍をかたどったものとされています。

与論城址の敷地内には、地主(とこぬし)神社、琴平神社が勧進され、地主神社の境内では、年3回(旧暦 3 月、8 月、10 月の十五夜)、「与論十五夜踊り」が神前に奉納されています。与論十五夜踊りは、嶋中安穩・五穀豊穰を祈る祭事ですが、その発祥は、1561(永禄 4)年、当時の与論領主が、島内・琉球・大和の芸能を学ばせ1つの芸能としてまとめたものといわれ、各地の芸能の特色が混じり合い、与論島の文化交流の歴史が踊り継がれてきた珍しい芸能です。

与論十五夜踊りは 1993(平成 5)年、国の重要無形民俗文化財に指定されています。与論十五夜踊りの踊り手は、1 番組と2 番組に分かれ、双方が交互に踊りを奉納していきます。1 番組の踊りは本土風のもので寸劇仕立ての踊りとなっています。寸劇の台詞は与論の古い方言が使われ、竹と紙で作った大きな仮面を用いる特徴があります。2 番組の踊りは琉球風のもので、集団による手踊り・扇踊りとなっています。恋や自然を謳いあげた唄は優雅で美しく踊り手はシュパという頭巾を被っています。1 番組、2 番組とも踊り手は全員男性で、十五夜踊り保存会が保存、伝承に取り組んでいます。

与論城址周辺には複数の石碑が建立されており、その中に復帰記念碑があります。1945(昭和 20)年の第二次世界大戦敗戦により日本は米国の占領下に置かれ、1952(昭和 27)年のサンフランシスコ講和条約の発効で日本が米国から独立した際、北緯 30 度線以南の南西諸島は米国統治下に置かれました。

奄美群島は、1953(昭和 28)年に日本に復帰しますが、沖縄は 1972(昭和 47)年まで米国の統治下にありました。当時の与論島は国境の島であり、1963(昭和 38)～1969(昭和 44)年まで毎年、沖縄の日本への早期復帰を訴える 4.28 海上集会が行われ、与論島から約 20km 南方の沖縄県国頭村辺戸岬との間でかがり火が焚かれるなどしました。復帰記念碑は、沖縄の復帰運動を記念して建立され、沖縄県北部の国頭村と与論町との交流は現在も続いています。

第3章 与論町の観光の課題

3-1 観光協会会員アンケート調査より

本計画を策定するにあたり、(一社)ヨロン島観光協会では、観光協会の会員を対象としたアンケート調査を実施しました。アンケート調査は、与論島の観光振興に対する会員の意向や観光の課題の把握とあわせて、今後の与論島の観光が目指す方向性や会員の事業継続意向、持続可能な観光に対する考え、観光協会に対する信頼度や会員への貢献度等についても広く会員意見の収集を行いました。

以下に、観光協会会員アンケートの実施概要と調査結果を示します。

(1) 観光協会会員アンケート調査の実施概要

- ・調査期間: 令和3年10月1日(金)～令和3年10月23日(土)
- ・調査方法: アンケート調査サイトによる web 方式として、サイトのリンクを観光協会員にメール送信
- ・回答者数: 調査対象者は観光協会の全個人会員 132 名、回答者数 66 名、回答率 50.0%

(2) 観光協会会員アンケート調査結果

1. 回答者について

①性別	男性	女性						
回答数	48人	18人						
%	72.7%	27.3%						
②年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
回答数	0	2人	16人	17人	9人	16人	6人	
%	0	3.0%	24.2%	25.8%	13.6%	24.2%	9.1%	
③事業形態	法人	個人事業主	雇用されている	その他				
回答数	14人	48人	4人	0				
%	21.2%	72.7%	6.1%	0.0%				
④従業員数	雇用者なし	1～2人	3～5人	6～10人	11～20人	21人以上	その他	
回答数	27人	17人	7人	11人	1人	1人	2人	
%	40.9%	25.8%	10.6%	16.7%	1.5%	1.5%	3.0%	
⑤業種(重複あり)	宿泊業	飲食業	特産品製造・販売業	ガイド	交通事業者	アクティビティ(海)	アクティビティ(陸)	その他
回答数	18人	22人	16人	7人	4人	11人	5人	4人
%	27.3%	33.3%	24.2%	10.6%	6.1%	16.7%	7.6%	6.1%

観光協会会員アンケートの回答者は、男性が 72.7%を占めていました。年代は 40 代が 25.8%と最多で、次いで 30 代と 60 代が同数でした。アンケート調査方式が web を使ったものだったため、回答者が比較的若い年代にも分布したものと考えられます。

事業形態は個人事業主が 70%以上を占め、従業員数は雇用者無しが約 40%と最多になっています。これは、与論島の観光業や観光関連産業の特徴の1つと推察されます。業種は、飲食業が 30%以上ですが、複数の業種を1事業者が担う重複が見られました。

2. 回答者の事業継続意向

	回答数	%
子供や孫に継いでもらう予定で子供や孫も承諾している	6人	9.5%
事業経営は問題ないが後継者がいないので10年後の継続は未定	31人	49.2%
10年以内に転業もしくは廃業したい	4人	6.3%
家業を継ぎ今後も事業に取り組みたい	8人	12.7%
家業とあわせて新規事業にも取り組みたい	7人	11.1%
家業とは別の新規事業に取り組みたい	1人	1.6%
その他	6人	9.5%

3. 回答者の事業の今後の方向性

	回答数	%
お客様の人数や売り上げはあまり増加させず今のままの事業規模、経営規模で続けたい	20人	32.3%
販売している商品やサービスの単価を上げて収入を増やしたい	18人	29.0%
販売している商品やサービスの単価はそのままお客様を増やして収入を増やしたい	19人	30.6%
その他	5人	8.1%

4. 回答者の事業に必要な支援

	回答数	%
経済的支援(事業資金の補助、施設改修費の補助、事業拡大の補助等)	35人	58.3%
人的支援(繁忙期の手伝い、夜間の手伝い、休日の手伝い等)	26人	43.3%
デジタル技術支援(ホームページ作成、予約等のオンライン化、SNSの情報発信等)	18人	30.0%
専門家による支援(経営面のアドバイス、施設改修のアドバイス、集客のアドバイス等)	13人	21.7%
補助金、助成金、公的支援制度等の事業に有利な情報入手や書類作成の支援	29人	48.3%
その他の支援	2人	3.3%

5. 回答者が事業で困っていること、不安なことと相談先の有無

	困っていない		相談先あり		相談先なし	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
経営資金不足	31人	50.0%	15人	24.2%	12人	19.4%
労働力不足	30人	48.4%	10人	16.1%	20人	32.3%
後継者問題	37人	59.7%	10人	16.1%	11人	17.7%
集客が困難	37人	59.7%	9人	14.5%	11人	17.7%
施設設備の老朽化	25人	40.3%	19人	30.6%	16人	25.8%
補助金等の情報収集が困難	26人	41.9%	18人	29.0%	16人	25.8%
デジタルの利活用方法	27人	43.5%	14人	22.6%	18人	29.0%

与論島の持続可能な観光地域づくりでは、観光協会員が事業を継続していくことが大きな要点の1つとらえています。そのため、観光協会会員アンケートでは、会員が事業を継続するうえで困難とらえている事柄の把握を行いました。その結果として、殆どの項目について、過半数の会員が困っていないことが分かりました。一方で、約30%前後が相談先がないとしている項目の「労働力不足」や「デジタル利活用方法」等は、今後、解決方を検討する必要がある可能性が高いものと考えられます。

6. 与論島の宿泊施設で課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
宿泊施設不足	25人	43.9%
既存の宿泊施設の老朽化	36人	63.2%
宿泊料金の値上げをしづらい	9人	15.8%
廃業した宿泊施設が再利用されていない	25人	43.9%
労働力不足(繁忙期の働き手不足等)	12人	21.1%
人材不足(良質な働き手を確保しづらい)	19人	33.3%
オンライン予約やクレジットカード決済の遅れ	6人	10.5%
特に課題は無く宿泊品質も意識も現状のままでよい	1人	1.8%
課題は分からない	8人	14.0%
その他	3人	5.3%

7. 与論島の飲食店で課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
飲食店の件数が少ない	15人	26.3%
飲食店の種類が少なく飲食の選択肢が限定的	19人	33.3%
昼間から夜まで通し営業している飲食店が少ない	18人	31.6%
女性客向けの飲食店が少ない	8人	14.0%
労働力不足(繁忙期の働き手不足等)	15人	26.3%
人材不足(良質な働き手を確保しづらい)	19人	33.3%
デジタル対応(店のホームページ、SNS)やクレジットカード決済の遅れ	10人	17.5%
特に課題は無く飲食の品質も意識も現状のままでよい	4人	7.0%
課題は分からない	8人	14.0%
その他	10人	17.5%

8. 与論島のマリンレジャーで課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
島内での情報提供不足	19人	33.3%
島外での情報提供不足	9人	15.8%
インターネット上の情報提供不足	12人	21.1%
オンライン予約やカード決済の遅れ	6人	10.5%
同じ体験の価格統一等の事業者の連携不足	16人	28.1%
島内に住民票が無くトップシーズンだけ事業をしている業者がいる	17人	29.8%
特に課題は無くマリンレジャーの品質も意識も現状のままでよい	3人	5.3%
課題は分からない	14人	24.6%
その他	9人	15.8%

与論島の観光の課題は、宿泊施設、飲食店、マリンレジャーそれぞれで、回答者の約 30%以上が課題ととらえている項目が一致していることが分かります。また次頁の特産品・土産物、体験プログラム、域内交通では、回答者が課題としている項目が過半数となっており、観光振興においてこれらの課題は早急に解決が必要な項目ととらえられます。来島手段の課題は、航空会社への働きかけが必要なものですが、特に沖縄からの誘客を視野に入れた場合は、要点と位置付けられます。

9. 与論島の特産品・土産物で課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
魅力的な特産品・土産物が少ない	33人	57.9%
与論島らしい特産品・土産物が少ない	36人	63.2%
女性向けの特産品・土産物が少ない	1人	1.8%
高品質で高価格帯の特産品・土産物が少ない	7人	12.3%
新たな商品開発が必要	24人	42.1%
既存の特産品のデザインやパッケージの魅力向上が必要	13人	22.8%
インターネットを使った通販に対応していない	5人	8.8%
土産物店のキャッシュカード決済の遅れ	3人	5.3%
特に課題は無く商品の品質も意識も現状のままでよい	2人	3.5%
課題は分からない	5人	8.8%
その他	2人	3.5%

10. 与論島の体験プログラムで課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
海のプログラムの充実化	9人	15.8%
陸域のプログラムの充実化	22人	38.6%
雨天でも楽しめるプログラムの充実化	43人	75.4%
早朝や夜間に楽しめるプログラムの充実化	8人	14.0%
オフシーズンのプログラムの充実化	38人	66.7%
オンライン予約やカード決済への対応	2人	3.5%
特に課題は無く体験の品質も意識も現状のままでよい	3人	5.3%
課題は分からない	5人	8.8%
その他	2人	3.5%

11. 与論島の域内交通で課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
空港や港から島内宿泊施設や市街地に行けるバスがあるとよい	36人	63.2%
ワンコインバスや乗り合いタクシーのような機動性のよいバスがあるとよい	20人	35.1%
空港や港への宿泊施設の送迎の負担を軽減する輸送の仕組みがあるとよい	34人	59.6%
島内のレンタカーを増やしたほうがよい	3人	5.3%
電動キックボードや自転車等の環境にやさしい乗り物を増やしたほうがよい	11人	19.3%
特に課題は無く移動手段の質も種類も現状のままでよい	6人	10.5%
課題は分からない	3人	5.3%
その他	5人	8.8%

12. 与論島への来島手段で課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
夏季の航空機の増便が必要	28人	49.1%
通年で航空機の増便が必要	12人	21.1%
大型機材(72人乗等)の導入が必要	12人	21.1%
午前中の到着便が必要	23人	40.4%
夕方への到着便が必要	12人	21.1%
特に課題は無く来島手段の質も種類も現状のままでよい	8人	14.0%
課題は分からない	2人	3.5%
その他	8人	14.0%

13. 与論島の景観や案内表示について課題だと思うこと

①島内の道路や観光地の案内表示	回答数	%	
足りないと思う	27人	50.0%	
多いと思う	1人	1.9%	
現状のままでよい	21人	38.9%	
課題は分からない	3人	5.6%	
その他	2人	3.7%	
②島内の街並みの景観	回答数	%	
寂れているものは民間が改修したほうがよい	5人	9.3%	
寂れているものは行政が改修したほうがよい	21人	38.9%	
寂れているものは撤去したほうがよい	10人	18.5%	
部分的に整備しているミコノス島をイメージした景観デザインで島内を再整備したほうがよい	5人	9.3%	
新しいデザインやテーマで島内の景観整備をやり直したほうがよい	5人	9.3%	
現状のままでよい	4人	7.4%	
課題は分からない	0	0	
その他	3人	5.6%	
③島内の海浜の景観	回答数	%	
必要最小限の道路や植栽の整備をしたほうがよい	27人	50.0%	
昔の海浜の風景を復元する整備ができるとよい	14人	25.9%	
欧米の海浜リゾートのような整備がよい	3人	5.6%	
現状のままでよい	7人	13.0%	
課題は分からない	0	0	
その他	2人	3.7%	

14. 与論島の情報発信で課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
インターネット情報(ホームページ、SNS、Youtube動画等)の発信が必要	35人	63.6%
島外でマップやチラシ配布が必要	4人	7.3%
島内でマップやチラシ配布が必要	3人	5.5%
島外向のフリーペーパー配布が必要	13人	23.6%
島内向けのフリーペーパー配布が必要	6人	10.9%
雑誌やTV等のマスメディア露出の強化	19人	34.5%
航空会社等の交通機関とのコラボの強化	25人	45.5%
課題は分からない	4人	7.3%
その他	4人	7.3%

15. 与論島のインフラ整備で課題だと思うこと

(選択肢より3項目選択)	回答数	%
街なかの歩道整備が必要	12人	21.8%
観光スポットの遊歩道整備が必要	15人	27.3%
駐車場整備が必要	21人	38.2%
風景の良い場所の展望台や休憩場所の整備が必要	23人	41.8%
街なかの公園整備が必要	9人	16.4%
現状のままでよい	8人	14.5%
課題は分からない	3人	5.5%
その他	6人	10.9%

与論島の景観や案内表示の課題は、島内の道路や観光地の案内表示の不足を指摘した回答が半数を占め、島内のまちなみ景観では寂れて使われなくなった施設に対する指摘が過半数となっています。

与論島の重要な資源の1つである海浜の景観は、必要最小限の道路や植栽整備とする回答が半数となっています。

情報発信では、インターネット情報の発信とした回答が 60%を超え、交通機関とのコラボについても 40%以上の回答が見られました。島内のインフラ(社会基盤)整備の課題は、風景の良い場所の休憩施設整備や駐車場整備への回答が約 40%見られました。

16. 与論島が目指すべき観光の方向性

①開発の方向性（優先度の高い2項目を選択）	回答数	%
これまで以上に積極的なリゾート開発をすべき	6人	10.9%
開発業者を選び、開発できる土地の広さを制限すべき	7人	12.7%
乱開発にならない法制度などの整備をすべき	31人	56.4%
島内で開発する場所と保護保全する場所を分けるべき	35人	63.6%
今以上の開発はすべきではない	7人	12.7%
開発の制度整備や制限等は行わず現状のままにすべき	4人	7.3%
その他	0	0
②誘客すべき客層（優先度の高い2項目を選択）	回答数	%
島で享乐的に飲食や体験等の観光を楽しみたい客層	14人	25.5%
島の地域経済をサポートする消費額の多い客層	16人	29.1%
島の住民に敬意を払い、歴史や文化を大切にする客層	22人	40.0%
海洋教育や環境保全等への意識が高い客層	13人	23.6%
島の歴史文化や自然に対して学術的な興味が強い客層	5人	9.1%
来島前PCR検査等を受けて安全面等にも責任を持つ客層	12人	21.8%
長期間(1週間以上)滞在し、時間をかけて島を楽しむ客層	13人	23.6%
その他	1人	1.8%
③与論島全体で目指すべき観光地像（優先度の高い2項目を選択）	回答数	%
沖縄のような大型のリゾート観光地を目指すべき	1人	1.8%
民宿やゲストハウスで島民と交流できる従来の観光を維持すべき	28人	50.9%
安い価格設定で来島者を増やし、マストツーリズムを推進すべき	2人	3.6%
現在より消費額や客単価の高い高級リゾート観光地を目指すべき	13人	23.6%
沖縄や奄美群島の広域観光ルートで周遊する観光地を目指すべき	13人	23.6%
海の環境保全や歴史文化を重視する観光地を目指すべき	27人	49.1%
その他	5人	9.1%
④与論島全体で目指すべき誘客方法（優先度の高い2項目を選択）	回答数	%
コロナ禍以前のような大規模イベントを多数実施する誘客	6人	10.9%
閑散期に小規模で長期的なイベントを数件実施する誘客	11人	20.0%
交通機関(航空会社、フェリー会社)との旅行商品造成による誘客	18人	32.7%
島内の体験プログラムを組み込んだ旅行商品造成による誘客	15人	27.3%
クチコミサイト(トリップアドバイザー、4トラベル等)を活用した誘客	4人	7.3%
各種のSNS(Instagram、FB、youtube等)を活用した誘客	12人	21.8%
映画やTV番組等のマスメディア露出による誘客	6人	10.9%
島外企業や学校等の各団体と連携した研修やビジネス滞在等の誘客	12人	21.8%
その他	2人	3.6%

与論島が目指すべき観光の方向性は、「開発する場所と保護保全する場所を分ける」、「乱開発にならない法制度などの整備」、「民宿やゲストハウスで島民と交流できる従来の観光を維持」の3項目で 50%以上の回答が見られました。

誘客すべき客層では「島の住民に敬意を払い、歴史や文化を大切にする客層」、島全体で目指すべき観光地像では「海の環境保全や歴史文化を重視する観光地」で、40%以上の回答が見られました。

17. 令和4年の夏に開業予定の「(仮称)渚の交番」について

①施設の認知度	回答数	%
どのような施設なのか知っている	24人	43.6%
どのような施設なのか知らない	30人	54.5%
施設に興味がない	1人	1.8%
②施設への期待	回答数	%
観光振興に期待	17人	30.9%
観光の質的向上に期待	18人	32.7%
海の環境保全に期待	17人	30.9%
特産品の販売に期待	14人	25.5%
観光情報の新たな発信拠点として期待	18人	32.7%
新たな飲食の提供場所として期待	7人	12.7%
大金久の新たな観光拠点として期待	21人	38.2%
地域住民と観光客との交流の場として期待	11人	20.0%
その他の期待点	5人	9.1%

18. 回答者のSDGsの取組状況

	回答数	%
知っており自社業務の中で取り組んでいる	14人	26.4%
知っているが特に取り組んでいない	20人	37.7%
名前は知っているがどういうものなのかは知らない	6人	11.3%
知らないし聞いたこともない	13人	24.5%
その他	0	0

19. 回答者のGSTCによる国際基準、推奨評価指標(GSTC-I、D)の認知度

	回答数	%
知っており自社業務の中で取り組んでいる	10人	19.2%
知っているが特に取り組んでいない	13人	25.0%
名前は知っているがどういうものなのかは知らない	8人	15.4%
知らないし聞いたこともない	21人	40.4%
その他	0	0

令和4年の夏季に完成予定の大金久海岸の観光交流拠点施設の認知度は過半数を下回っているものの施設への期待では5項目で30%以上の回答が見られ多様な期待がうかがえます。

SDGsの取組状況は、「知っているが特に取り組んでいない」が最多でした。また、GSTCによる持続可能な観光地の地域と観光産業の取組では、「知らないし聞いたこともない」が40%以上という結果になりました。

20. (一社)ヨロン島観光協会に対する信頼度

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	1人	2人	4人	3人	10人	7人	10人	8人	3人	6人
0	1.9%	3.7%	7.4%	5.6%	18.5%	13.0%	18.5%	14.8%	5.6%	11.1%
信頼度の加重平均:			6.33	NPSの計算結果:			-33.30			

21. (一社)ヨロン島観光協会が取り組んでいる事業の会員への貢献

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	2人	2人	2人	2人	14人	11人	7人	8人	2人	4人
0	3.7%	3.7%	3.7%	3.7%	25.9%	20.4%	13.0%	14.8%	3.7%	7.4%
貢献度の加重平均:			6.05	NPSの計算結果:			-50.00			

24. 与論町が実施している観光振興策に対する満足度

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	2人	1人	4人	5人	17人	8人	9人	3人	1人	3人
0	3.8%	1.9%	7.5%	9.4%	32.1%	15.1%	17.0%	5.7%	1.9%	5.7%
満足度の加重平均:			5.57	NPSの計算結果:			-62.30			

26. 回答者自身の事業に対する満足度

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	1人	2人	3人	4人	15人	11人	9人	5人	2人	1人
0	1.9%	3.8%	5.7%	7.5%	28.3%	20.8%	17.0%	9.4%	3.8%	1.9%
満足度の加重平均:			5.70	NPSの計算結果:			-62.30			

(一社)ヨロン島観光協会に対する信頼度、観光協会の事業の会員への貢献度、与論町の観光振興策の満足度、回答者自身の事業の満足度は、0(最低)～10(最高)の11段階評価で回答を得ました。

それぞれの加重平均とNPS※の結果は上記の表のとおりです。

※NPS は会社や商品の推奨度(他の人へお薦めするかどうか)を測定する方法です。会員アンケート調査では、推奨度の測定方法のNPSを参考に観光協会や与論町、回答者の事業への貢献や満足について質問しました。

NPSの計算方法では、評価0～6が批判者、7～8が中立者、9～10が推奨者になり、推奨者の割合-批判者の割合がNPSの数値になります。

観光協会会員アンケートでは、「観光協会に実施してほしい観光振興策や解決してほしい観光の課題」「観光協会会員として協会に貢献できること」と「与論町に実施してほしい観光振興策や解決してほしい観光の課題」「与論町の観光に関するご意見」について自由記述方式で質問しており、その結果は、次頁意向に示したとおりです。

また、各質問で「その他」とした人たちからの意見や感想、アイデアは、巻末の参考資料にまとめて記載しています。

22. 観光協会に実施してほしい観光振興策、解決してほしい観光の課題(自由記述)

いつもありがとう
観光客が増えるように頑張ってください
積極的な首都圏への売り込み。
特産品の創出と業者連携
沖縄まできたインバウンド客をうまく誘致する方法。
DMOとして観光の舵取り役として期待しています。
関東での特産品の販売や紹介
旅前観光客の、ネット上での利便性を高める工夫。各OTAなどを参考に、宿・アクティビティ・飲食店などの情報がわかりやすく予約等がしやすい与論島オリジナルページが欲しい
閑散期の観光対策
島内外でも与論島の良さをアピールして行くイベントや勉強会などの実施
もっと明るく、島を盛り上げて欲しい。事務所の雰囲気が悪いし暗いので、音楽など流せばよいと思う。
観光スポットの清掃
毎年同じような島外営業方法だったり、「依頼があれば動く」といった受け身の姿勢にどうしてもみえてしまいがちなので、もう少しアグレッシブに自分たちのお給料を上げるため、観光協会の売上を上げるためには、今年はどんなアプローチをしようか…など切磋琢磨したいだけなら嬉しいなと思います。そんな中でのフリーペーパーやオンラインショップ、会員LINEという新たな試みは、とても好感が持て、会員でいる意味が感じられ、嬉しく感じています。
移住者を集めた意見交換会
現在もホームページ上で行われているが更に、普段の情報の開示、情報交換。協会が、行政がどのような方向性で誘客、集客を目指しているか？が分かるようにして貰えたら良いと思います。
昔のパラオの王国を取り戻してください
環境保護。昔ながらの原風景の復活。
来島者のマナー向上 第三者の有識者を入れてほしい
まず、島民に観光協会が何をしているか知ってもらうことが必要かなと思う。役場と観光協会の役割分担がわからない。
インターネット予約について、外部予約サイト並みの検索エンジンの強化
海はもちろん、何かを見に来る島にしたら良いと思います。有名建築家に作品依頼など。

23. 観光協会会員として協会に貢献できること(自由記述)

新たな与論島サンプルのブランドとして、奄美黒ほろほろ島を立ち上げました。今後、自社製品を通じて与論のPRに貢献したいと考えております。
事業実施成功例の情報共有
年会費支払い
連携して一体となった観光振興
協会員のお店等の紹介
お客様が満足して帰ってもらうサポートができるように努力する
与論島の魅力＆情報のPR
20代の一部として、旅の目的地としての与論島を客観的に見た時の印象や欲しい情報などの提供
ヨロンの観光発信
与論島の素晴らしさをアピールして行くこととその手伝い。
動画や写真の提供等
商品開発やPR方法
観光客と島民に対して、これまで島に無かった価値やサービスを提供していきたいです。
会員として情報を取りに行く事。出来れば、同じ方向性で集客、誘客を行って行けるようにしたい。その事により島全体の誘客増につながると思う。
言ってくれば考えて貢献する
与論島に観光客が来なければ、観光協会も思い通りの活動が出来ないでしょう。集客が望める提案は出来ます。独自で大手旅行会社、航空会社、雑誌社などに出向き営業しています。
今後のイベント、集客など一緒に活動出来る場への参加
事業の継続
観光協会が会員に求める協力や賛助
魅力的な体験プログラムを提供し、観光客の満足度やリピート率を高める。また、その様子をSNSで発信し、新たな来島者を増やす。その他、陸域など新しいプログラムの開発。
アイデアを出すことくらいです

25. 与論町に実施してほしい観光振興策や解決してほしい観光の課題(自由記述)

沖永良部、農業立島。ヨロン観光立島であるか。沖縄と比べるととても観光立島とは言えない。演出不足。

与論島の観光名所や海などのPRに力を入れてほしい

イベントや各企業、団体との交流を含め、積極的なPRを期待したい。

特産品と観光の連携

パナウル王国らしく特に花はハイビスカス、クロトンの多種を道路端に、土地の人の了解で植え花が咲いているのに、バッサリ切らないで、剪定も考慮していただきたいと思います 四季折々強く美しく！

戦略が見えづらいので、これから連携をさらに強化して進めていきたい。

コロナ禍が終息するまで、しまのわクーポンの定期的な配布。

道路の整備

メディア誘致

飛行機の増便

ウィズコロナ、アフターコロナ時代の新しい観光業を確立してほしいです。

どんな客層を誘致したいのか謎。特に町が作ったPR動画に関しては、完全に宮古島や石垣島の客層向けにしか見えない。ミスマッチが起きる。

AEDの設置普及

人事異動で人が変わってしまっても、誰でも情報がスムーズに共有されており、その時代に合わせたニーズを把握し、それに見合う支援を考えられるシステムづくりをお願いしたいです。

与論島としてよに観光PRの方針の見える化、一本化。担当者により考え方が異なる様に感じがする。

現在取り組んでいる政策を今後も続けて行って欲しいと思います。後、老朽化した施設の改修に使えるような補助金等が有れば有難いです。

色々な浜辺を盛り上げたい

早期に与論空港の滑走路の延長、ジェット化

コースタルリゾートの木の伐採や整備。廃漁船などの整理、管理。

この先どういった方針で観光振興を実施していくのか？ コロナをどう扱うのか？

島の全体を見通して、観光商業の発展に必要な投資 観光立島として島全体を巻き込んで観光を盛り上げる施策

最近行っていただいた大金久海岸砂浜での駐車禁止などのように、景観を守ることやマナー向上に関する取り組みを島全体に拡げること

新しい問題に対してのルール作り

27. 与論町の観光に関するご意見(自由記述)

オフシーズンを含め、何度も来たいと思える与論島にする為に春夏秋冬、朝～夜まで様々な体験ができるよう、各団体と協議して欲しい。人が集まれば、SNS等で拡散され、商品も売れる。まずは、沢山の体験ができるよう知恵を振り絞る事だとも思う。国内外で既にあるアイデアでも、与論にて体験すると違った感動があると思うので、島人以外の人の意見を沢山収集し、トライアンドエラーで、挑戦しても良いと思う。

島内事業者の連携と非観光事業者や個人との意識共有

パナウル王国にふさわしく特に花は、ヨロンらしくハイビスカス、クロトンの、多種で、道路端の土地の了解で植え、花が咲いているのに、バツサリ切らないで、剪定も考慮していただきたいと思います。

いつか行きたい場所から今すぐ行きたい場所に変えないと、この先も厳しそう。冬から暖くなる時期にしっかりと観光客へのアピールが大事だと思います。

下水道工事

みんなが楽しいと思える島にしていきたいです。

観光に関する他業者との情報の共有。

与論島は文化＆自然＆歴史等唯一無二の個性＆魅力を武器に与論ならではの観光に力を入れていければ良いと思います。

年間を通してヨロンを楽しめる観光が必要

与論町の観光が続いて行くように自由競争だけでなく色々な意見・アイデアを交換をできればと思います。

温泉施設が必要と感じます。海が見えたら最高です。冬場や雨の日の利用も増えるし、島の人にも喜ばれそう。

無農薬、無化学肥料の特産品が増えて欲しい

夏場や天気の良い日は海の楽しみができますけど 冬場や雨天時はどうしているのかなと心配になります

町全体にかけてもっと花を増やして、フラワーロードにして、花と珊瑚のパナウル王国にして欲しい

島民の意向が重視されがちだと感じている。移住者や観光客の声にもっと耳を傾けて欲しいです。

観光のみではなく、与論町として島の玄関口で有る空港や、港の整備をどうするか具体的に検討して行かないといけないと思います。

外部の意見を取り入れてみてはいかがでしょうか。

これ以上の観光客の増加は、島の環境の破壊に繋がり兼ねない。現状維持。

メインは、与論町民と来島者のほどよい距離感だと感じます、双方がよい方向にいくように期待します。

島全体として、観光に関わるものだけでなく観光立島として成り立っていることを皆で理解する

島民、島の子どもたちがその価値を体験、発信できるように、昨年行ったような島民向けの体験プログラムへの助成などを継続していただきたいです。

とにかくルール作り。

3-2 交流人口動態調査より

奄美群島全体を対象とする観光推進団体の(一社)奄美群島観光物産協会は、奄美群島内の各島で共通のフォーマットによる来訪者向けのアンケートによる交流人口動態調査をコロナ禍以前から実施しています。この調査は、回答者が記入した来訪先の島ごとに集計されているため、本計画策定において与論島を往訪した観光客の回答を抽出、集計しました。

(1) 来島者アンケート調査の実施概要

- ・調査期間: 令和3年4月～令和4年3月
- ・調査方法: 奄美群島内の空港、フェリーターミナルに掲示しているチラシの QR コードよりアンケート専用 web サイトにアクセスし回答を入力
- ・回答者数: 与論島に来島し回答した来島客484名

(2) 来島者アンケート調査結果

次ページ以降の与論島の来島者アンケート結果より、最も多かった発地は東京都(22.9%)、次に神奈川県と大阪府(10.5%)でした。他に首都圏は埼玉県(5.4%)と千葉県(3.9%)、近畿圏は兵庫県(2.7%)と奈良県(2.3%)、中部圏は愛知県(2.9%)等の大都市からの来島者が約 60%を占めていました。また、遠方の旅行を避け近隣地域を訪れるコロナ禍の影響と推察される鹿児島県内(9.7%)や沖縄県(5.0%)からの来島者も一定数いることが分かりました。

来島者の性別は男性(47.5%)と女性(51.7%)で女性が僅差で多く、年代は 50 代(24.2%)が最多で次に 30 代(22.5%)となっていました。

職業は会社員(50.2%)が過半数を占め、次が自営業(8.1%)となっていました。同行者の最多は単身(25.9%)、次に夫婦・パートナー(25.7%)で、単身と夫婦・パートナーが来島者の約半数を占めていました。

来島時に利用した交通手段は、航空機(JAL 系/往路 64.3%、復路 60.0%)が最多ですが、船舶(往路 28.2%、復路 30.7%)利用者も約 30%程度いることが分かります。これは他の奄美群島の島とは異なる傾向であり、沖縄からフェリーを利用して来島できる与論島の優位性がコロナ禍でも確認できました。

来島経験は、初めて(73.0%)が圧倒的多数の一方、6回以上(9.3%)、2回目(9.1%)は約 10%程度を占めていました。

旅の一番の楽しみは海(78.3%)が回答者の約 80%近くを占め、次が文化・歴史(8.2%)でした。

観光目的の来島は回答者の 80.9%で、彼らが与論島を選ぶ決め手になった情報源は家族・友人・知人の紹介(21.2%)が最も多く、次は個人ブログ・SNS(16.3%)でした。この結果より、クチコミの信頼性の高さがうかがえるとともに、アンケートの回答にある「与論島の推奨意向」が今後の観光誘客では重要な要素であることが裏付けられています。

Q1. 回答者の居住地(単一回答)

回答者総数	(484)	
国外	0	0
北海道	10人	2.1%
青森県	0人	0.0%
岩手県	2人	0.4%
宮城県	2人	0.4%
秋田県	0人	0.0%
山形県	0人	0.0%
福島県	1人	0.2%
群馬県	1人	0.2%
栃木県	2人	0.4%
茨城県	1人	0.2%
埼玉県	26人	5.4%
千葉県	19人	3.9%
東京都	111人	22.9%
神奈川県	51人	10.5%
新潟県	3人	0.6%
富山県	2人	0.4%
石川県	1人	0.2%
福井県	0	0
山梨県	0	0
長野県	2人	0.4%
岐阜県	6人	1.2%
静岡県	1人	0.2%
愛知県	14人	2.9%
三重県	5人	1.0%
滋賀県	8人	1.7%
京都府	9人	1.9%
大阪府	51人	10.5%
兵庫県	13人	2.7%
奈良県	11人	2.3%
和歌山県	1人	0.2%
鳥取県	0	0
島根県	1人	0.2%
岡山県	5人	1.0%
広島県	2人	0.4%
山口県	3人	0.6%
徳島県	1人	0.2%
香川県	1人	0.2%
愛媛県	2人	0.4%
高知県	1人	0.2%
福岡県	16人	3.3%
佐賀県	1人	0.2%
長崎県	1人	0.2%
熊本県	3人	0.6%
大分県	4人	0.8%
宮崎県	0	0
鹿児島県	47人	9.7%
沖縄県	24人	5.0%
奄美大島	9人	1.9%
喜界島	1人	0.2%
徳之島	0	0
沖永良部島	6人	1.2%
与論島	2人	0.4%
無回答	1人	0.2%

Q2. 回答者の性別(単一回答)

回答者総数	(484)	
男性	230人	47.5%
女性	250人	51.7%
その他	0	0
回答しない	4人	0.8%

Q3. 回答者の年代(単一回答)

回答者総数	(484)	
20歳未満	4人	0.8%
20代	91人	18.8%
30代	109人	22.5%
40代	82人	16.9%
50代	117人	24.2%
60代	64人	13.2%
70歳以上	17人	3.5%

Q3. 回答者の職業(単一回答)

回答者総数	(484)	
会社役員	17人	3.5%
会社員	243人	50.2%
公務員	30人	6.2%
自営業	39人	8.1%
自由業	12人	2.5%
派遣社員	4人	0.8%
パート・アルバイト	34人	7.0%
専業主婦／主夫	32人	6.6%
学生	30人	6.2%
無職	34人	7.0%
その他	8人	1.7%
無回答	1人	0.2%

Q4. 回答者の同行者(複数回答)

回答者総数	(482)	
単身	125人	25.9%
恋人	42人	8.7%
夫婦・パートナー	124人	25.7%
子ども連れ家族	41人	8.5%
その他家族(両親兄弟等)	36人	7.5%
友人・知人	83人	17.2%
職場の同僚	29人	6.0%
地域・趣味・サークル	16人	3.3%
その他	5人	1.0%
無回答	2人	0.4%

Q5. 回答者が往復で利用した交通手段（複数回答）

往路		
回答者総数	(482)	
JAL・JAC・J-AIR	310人	64.3%
ピーチ航空	33人	6.8%
スカイマーク	16人	3.3%
RAC	35人	7.3%
船舶	136人	28.2%
その他	4人	0.8%
無回答	4人	0.8%

復路		
回答者総数	(482)	
JAL・JAC・J-AIR	289人	60.0%
ピーチ航空	26人	5.4%
スカイマーク	17人	3.5%
RAC	35人	7.3%
船舶	148人	30.7%
その他	9人	1.9%
無回答	12人	2.5%

Q6. 回答者の来島経験（単一回答）

回答者総数	(482)	
初めて	352人	73.0%
2回目	44人	9.1%
3回目	27人	5.6%
4回目	7人	1.5%
5回目	5人	1.0%
6回以上	45人	9.3%
無回答	2人	0.4%

Q7. 今回の旅の一番の楽しみ（単一回答）

回答者総数	(392)	
海	307人	78.3%
山	1人	0.3%
文化・歴史	32人	8.2%
食事	23人	5.9%
世界自然遺産	12人	3.1%
人との交流	16人	4.1%
無回答	1人	0.3%

Q8. 今回の来訪の主要な目的（単一回答）

回答者総数	(482)	
観光・レジャー	390人	80.9%
仕事	34人	7.1%
帰省	3人	0.6%
親族・友人訪問	8人	1.7%
休養	16人	3.3%
冠婚葬祭	3人	0.6%
介護・見舞い	0	0
合宿・研修・大会	5人	1.0%
ワーケーション	4人	0.8%
マイル修行	2人	0.4%
その他	15人	3.1%
無回答	2人	0.4%

Q9. 「観光・レジャー」目的の回答者が与論島を選ぶ決め手になった情報源（単一回答）

回答者総数	(392)	
以前訪問した際の自身の経験	62人	15.8%
家族・友人・知人の紹介	83人	21.2%
個人ブログ・SNS	64人	16.3%
旅行会社のウェブサイト	33人	8.4%
自治体や観光協会のウェブサイト	29人	7.4%
旅行雑誌・ガイドブック	54人	13.8%
テレビ・ラジオ・映画・本	33人	8.4%
街頭広告	3人	0.8%
イベント	3人	0.8%
その他	26人	6.6%
無回答	2人	0.5%

Q10. 今回の宿泊施設の種類（単一回答）

回答者総数	(482)	
ビジネスホテル	23人	4.8%
リゾートホテル	197人	40.9%
民宿	76人	15.8%
旅館	30人	6.2%
ペンション	73人	15.1%
民泊	13人	2.7%
ホステル	22人	4.6%
ゲストハウス	26人	5.4%
利用なし	18人	3.7%
無回答	4人	0.8%

Q11. 今回の宿泊数（単一回答）

回答者総数	(482)	
日帰り	7人	1.5%
1泊	120人	24.9%
2泊	174人	36.1%
3泊	104人	21.6%
4泊	40人	8.3%
5泊	12人	2.5%
6泊	6人	1.2%
6泊以上	17人	3.5%
無回答	2人	0.4%

利用した宿泊施設はリゾートホテル(40.9%)、民宿(15.8%)、ペンション(15.1%)が、回答者の70%以上を占めていました。滞在日数は2泊(36.1%)、1泊(24.9%)、3泊(21.6%)という順位でした。

最も印象に残った観光地は百合ヶ浜(66.2%)、次に大金久海岸(39.2%)で海浜の人气が高く、印象に残った特産品はもずくそば(46.9%)、黒糖焼酎の島有泉(38.8%)、もずく料理(38.6%)が上位を占めました。

Q12. 今回の来訪で最も印象に残った観光地などの場所(選択肢より3箇所選択)

回答者総数	(482)	
百合が浜	319人	66.2%
サザンクロスセンター	150人	31.1%
与論民俗村	105人	21.8%
赤崎鍾乳洞	70人	14.5%
ヨロン駅	175人	36.3%
与論城跡	120人	24.9%
大金久海岸	189人	39.2%
ゆんぬあーどうる焼き窯元	17人	3.5%
その他	108人	22.4%
無回答	1人	0.2%

Q13. 今回の来訪で最も印象に残った特産品や料理等(選択肢より3箇所選択)

回答者総数	(482)	
もずくそば	226人	46.9%
モリンガ麺	160人	33.2%
島有泉(黒糖焼酎)	187人	38.8%
黒糖	163人	33.8%
鶏飯	149人	30.9%
きび酢	63人	13.1%
もずく料理	186人	38.6%
ウコン商品	16人	3.3%
その他	77人	16.0%
無回答	3人	0.6%

Q14. 今回の来訪中に行った活動や体験(複数回答)

回答者総数	(482)	
観光地めぐり	379人	78.6%
ダイビング	62人	12.9%
サーフィン	4人	0.8%
釣り	16人	3.3%
海水浴	117人	24.3%
その他マリレジャー	111人	23.0%
グラスボート	84人	17.4%
ゴルフ	0	0
グラウンドゴルフ	1人	0.2%
その他スポーツ・合宿・大会	5人	1.0%
ガイドツアー	27人	5.6%
自然散策	160人	33.2%
イベント・祭り	13人	2.7%
伝統行事への参加	3人	0.6%
文化体験(三味線・シマ唄等)	3人	0.6%
文化鑑賞(観光施設・郷土資料館等)	63人	13.1%
集落めぐり	39人	8.1%
郷土料理を堪能	131人	27.2%
黒糖焼酎を堪能	84人	17.4%
仕事・会議・研修	31人	6.4%
保養・休養	74人	15.4%
帰省・親戚等の訪問	3人	0.6%
友人・知人の訪問	25人	5.2%
スポーツキャンプの見学	0	0
その他	24人	5.0%
無回答	1人	0.2%

Q15. 今回の来訪で利用した島内移動の交通手段(複数回答)

回答者総数	(482)	
路線バス	14人	2.9%
観光バス	41人	8.5%
レンタカー	283人	58.7%
タクシー	36人	7.5%
自家用車・社用公用車等の送迎	54人	11.2%
バイク	62人	12.9%
自転車	66人	13.7%
航空機(群島内)	5人	1.0%
船舶(群島内)	15人	3.1%
使っていない	14人	2.9%
無回答	2人	0.4%

Q16. 今回の来訪で与論島以外に訪れた島(複数回答)

回答者総数	(482)	
奄美大島	118人	24.5%
喜界島	23人	4.8%
徳之島	47人	9.8%
沖永良部島	63人	13.1%
屋久島	20人	4.1%
沖縄諸島	159人	33.0%
無回答	210人	43.6%

Q17. 与論島への再来訪意向(単一回答)

回答者総数	(482)	
ぜひ訪れたい	316人	65.6%
訪れたい	113人	23.4%
少し訪れたい	39人	8.1%
どちらでもない	11人	2.3%
あまり訪れたくない	0	0
訪れたくない	1人	0.2%
次は来ない	1人	0.2%
無回答	1人	0.2%

Q18. 与論島の旅行の推奨意向(単一回答)

回答者総数	(482)	
ぜひ勧めたい	315人	65.4%
勧めたい	110人	22.8%
少しなら勧めたい	35人	7.3%
どちらでもない	15人	3.1%
あまり勧めたくない	3人	0.6%
勧めたくない	0	0
勧めない	3人	0.6%
無回答	1人	0.2%

与論島で行った活動や体験は観光地めぐり(78.6%)、次に自然散策(33.2%)が上位を占めていましたが、これ以外では郷土料理を堪能(27.2%)、海水浴(24.3%)、その他マリンレジャー(23.0%)を選んだ回答者が20%以上いました。

島内移動はレンタカー(58.7%)が最も多く、次に自転車(13.7%)、バイク(12.9%)の利用がありました。

与論島とあわせて訪問した島は沖縄諸島(33.0%)が奄美大島(24.5%)よりも多く、与論島と沖縄を周遊している観光行動が見られました。

与論島への再来訪意向は、ぜひ訪れたい(65.6%)、訪れたい(23.4%)という結果で、回答者の約90%が「訪れたい」という意向でした。

与論島の旅行の推奨度として、家族や友人知人に与論島の旅行を勧めたいと考えている回答者は、ぜひ勧めたい(65.4%)、勧めたい(22.8%)で、回答者の80%以上は与論島の旅行を勧めたいことが分かりました。

与論島への旅行形態、旅行費用の平均および項目別の消費額の平均は以下のとおりです。

Q19. 与論島への旅行形態と旅行費用平均

全体	(482)	有効 ケース	費用 平均
団体旅行(地域や職場、学校等の団体)		50	¥ 41,060
募集型団体旅行(旅行会社企画プラン)		115	¥ 83,903
個人手配旅行(交通・宿泊等を自分で手配) 渡航費のみ		360	¥ 49,080

Q20. 与論島内での消費額平均

全体	(482)	有効 ケース	費用 平均
宿泊費		341	¥ 20,941
島内での交通費(含レンタカー)		368	¥ 6,871
飲食費		422	¥ 11,552
農産物(果物・野菜・花等)		111	¥ 2,477
水産物(鮮魚・魚介類等)		86	¥ 2,058
お酒・飲料		301	¥ 3,181
その他の食料品・菓子		282	¥ 2,842
伝統工芸品(大島紬・染め物等)		67	¥ 3,650
その他製造品(文具・玩具・キーホルダー等)		80	¥ 2,877
テーマパーク・レジャーランド等		53	¥ 3,917
観光施設・資料館・植物園等		206	¥ 1,333
ゴルフ場・グラウンドゴルフ場等		11	¥ 1,455
スポーツ観戦・コンサート等		11	¥ 1,182
遊漁船(釣り、ホエールウォッチング、グラスボート等)		98	¥ 4,954
ダイビング		54	¥ 17,942
サーフィン		11	¥ 4,273
パラグライダー		10	¥ 1,400
ガイドツアー		40	¥ 5,430
その他ガイド料・体験料(シマ博・工芸体験・カヌー体験等)		52	¥ 11,873
レンタル料(レンタカーは除く)		36	¥ 3,687
エステ・マッサージ		17	¥ 6,953
ウエディング関係		11	¥ 45,055
郵便・宅配便		35	¥ 3,683
その他		26	¥ 3,842

与論島の訪問全体の満足度および項目別の満足度は以下のとおりです。全体的な満足度は、大変満足（42.1%）、満足（39.6%）ですが、各項目の満足度の中には、必ずしも満足度が高いとはいえないものや、大変不満として、強い不満を感じたものも見られました。大変不満の回答数が多かったものは、早急な対処や改善が必要な観光の課題と考えられます。

Q21. 今回の与論島訪問全体の満足度

全体	(482)	大変満足	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	大変不満	無回答
旅行全体		203人	191人	56人	12人	5人	5人	4人	6人
		42.1%	39.6%	11.6%	2.5%	1.0%	1.0%	0.8%	1.2%

Q22. 今回の与論島訪問の項目別満足度

全体	(482)	大変満足	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	大変不満	利用なし	無回答
自然・風景		270人	150人	43人	12人	2人	1人	1人	2人	1人
		56.0%	31.1%	8.9%	2.5%	0.4%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%
料理・食事		158人	164人	104人	31人	14人	6人	0人	4人	1人
		32.8%	34.0%	21.6%	6.4%	2.9%	1.2%	0.0%	0.8%	0.2%
宿泊施設		125人	135人	119人	57人	18人	13人	5人	9人	1人
		25.9%	28.0%	24.7%	11.8%	3.7%	2.7%	1.0%	1.9%	0.2%
接客対応		181人	166人	75人	41人	7人	5人	2人	4人	1人
		37.6%	34.4%	15.6%	8.5%	1.5%	1.0%	0.4%	0.8%	0.2%
観光施設		129人	157人	106人	52人	10人	7人	1人	18人	2人
		26.8%	32.6%	22.0%	10.8%	2.1%	1.5%	0.2%	3.7%	0.4%
観光情報の集めやすさ		92人	130人	118人	87人	23人	11人	2人	15人	4人
		19.1%	27.0%	24.5%	18.0%	4.8%	2.3%	0.4%	3.1%	0.8%
交通標識・案内板		95人	113人	118人	87人	29人	17人	6人	14人	3人
		19.7%	23.4%	24.5%	18.0%	6.0%	3.5%	1.2%	2.9%	0.6%
街の清潔さ		119人	159人	123人	48人	15人	10人	1人	4人	3人
		24.7%	33.0%	25.5%	10.0%	3.1%	2.1%	0.2%	0.8%	0.6%
公共交通機関の利便性		48人	48人	78人	117人	48人	29人	15人	96人	3人
		10.0%	10.0%	16.2%	24.3%	10.0%	6.0%	3.1%	19.9%	0.6%
交通マナー		119人	135人	88人	86人	15人	6人	5人	23人	5人
		24.7%	28.0%	18.3%	17.8%	3.1%	1.2%	1.0%	4.8%	1.0%
レンタカー		124人	97人	80人	68人	14人	4人	2人	89人	4人
		25.7%	20.1%	16.6%	14.1%	2.9%	0.8%	0.4%	18.5%	0.8%
タクシー		55人	31人	34人	110人	15人	4人	3人	215人	12人
		11.4%	6.4%	7.1%	22.8%	3.1%	0.8%	0.6%	44.6%	2.5%
スポーツ・レジャー		138人	80人	52人	65人	9人	6人	1人	122人	9人
		28.6%	16.6%	10.8%	13.5%	1.9%	1.2%	0.2%	25.3%	1.9%
通信環境（Wi-Fi等）		93人	92人	86人	74人	44人	24人	21人	45人	3人
		19.3%	19.1%	17.8%	15.4%	9.1%	5.0%	4.4%	9.3%	0.6%
伝統文化		101人	123人	89人	71人	8人	4人	1人	78人	7人
		21.0%	25.5%	18.5%	14.7%	1.7%	0.8%	0.2%	16.2%	1.5%
名産品・土産品		103人	120人	127人	82人	20人	7人	5人	14人	4人
		21.4%	24.9%	26.3%	17.0%	4.1%	1.5%	1.0%	2.9%	0.8%
トイレ施設		104人	126人	107人	73人	37人	12人	7人	13人	3人
		21.6%	26.1%	22.2%	15.1%	7.7%	2.5%	1.5%	2.7%	0.6%

3-3 検討委員会の意見より

本計画を策定するにあたり、検討委員会を設置し、飲食・特産品、体験・アクティビティ、宿泊・交通の各分野の検討委員による議論をもとに、意見収集を行いました。検討委員会で出た様々な意見は、計画に反映させることを目的として分野別、テーマ別に整理しました。

（1）第1回分科会の議論から出た検討委員の意見

第1回分科会では委員の専門分野を踏まえ、飲食・特産品、体験・アクティビティ、宿泊・交通の分科会に分かれ、計画策定の主旨説明の後、委員による議論と意見収集を行いました。

第1回分科会で抽出された意見は以下の通りです。

①飲食・特産品分科会の意見

観光協会の周知と会員間の交流	・会員間の意見交換が総会のみで、交流機会や意見交換、議論の場づくり。 ・他組織との情報共有と会員への情報提供、情報収集力の強化。 ・(新規事業者)観光協会への入会をいざなう資料配布と入会をやすくする。 ・観光協会に入るメリットの明確化。 ・商工会や特産品製造グループとの違いの明確化。
組織体制、外部連携	・農協、漁協、役場等との連携と中間支援組織としての DMO 機能の確立。 ・分野によって島内の関係者に仕事を拡大。 ・副課長3名の下に部門ごとの専門部の担当者設置。
特産品開発	・ハード(施設)に関する情報公開と誰でも使えるようにする。 ・特産品が完成した際、コンペ等による報奨金(事業者のやりがい喚起)。 ・小規模事業者ではむずかしい PR の公示。 ・(加工センター)予約～利用を容易にし、利活用情報の会員間への周知。
特産品製造	・与論の特産品が目指す方向性や目標、最終目的の設定。 ・特産品製造と特産品販売の収益化。
相談や支援	・企画した特産品の相談先や製造先の情報提供。 ・物産について相談できる窓口の整備。 ・事業者が望む広め方を支援する窓口。 ・担当の窓口と人員の増強。 ・手続き等の相談に対応する。 ・開発した特産品が軌道に乗るまでの伴走支援やサポート窓口。 ・小ロットの製造委託先等の紹介。
与論献奉	・島の文化として安全な方法による継承。 ・強要せず、やり方を間違えない今後への継承。 ・新たなルールづくり。
その他	・製造場所の確保と人手不足への支援。 ・与論島の特産品の売り方や方向性の明確化。 ・土産物づくりで目指す着地点の調査検討と実現。

②体験・アクティビティ分科会の意見

観光の方向性	・観光客と島民による自然配慮型観光地や地域貢献型観光地という考え方。 ・貢献型観光プログラムや自然に配慮した観光地づくりを方針に入れる。 ・右肩上がりだけを指さない。 ・家族向けロングバケーションの島。 ・ICT整備によるリモートワークの実現。
雨天時対策	・雨天時の体験（例：カタツムリ探索、酒造見学、農業ハウスの見学等）の検討。 ・雨天時の体験マップ等の雨でも楽しめる情報の提供。 ・サザンクロスセンターや図書館の積極利用を周知。 ・台風の来島キャンセル者へのフォローやオンラインツアーの提供。
既存の観光資源の再編集	・サザンクロスセンター、赤崎鍾乳洞等の楽しみ方を現在の視点を入れて再考。 ・サザンクロスセンターの老朽箇所の改修と運用内容や指定管理内容の見直し。 ・ゆんぬ楽園等の老朽化が進む民間観光施設の補修と維持、活用。 ・公民館講座のプログラムへの観光客の参加。 ・島内住民の地域活動への観光客の参加。
観光財源	・入島税、目的税、環境税の導入や徴収の仕組みを検討。 ・ふるさと納税等の活用や協力金等の徴収の仕組みを検討。
観光と環境との両立	・陸域からサンゴ礁までを対象範囲とする美化植栽。 ・環境への配慮を含めた観光の計画づくり。 ・サンゴに害のない日焼け止めの推奨。（条令化を視野に） ・KPI の与論島独自指標に環境項目（水質、サンゴの状況）を導入。
その他	・島の子供が方言をしゃべる場としての観光の利用。 ・島民として島の事を学び観光客に話ができる人材を育成する。 ・高齢者向けのアクティビティや求めているものの把握。 ・コロナの収束直後からのキャンペーンの実施。 ・会員向けの公的支援（補助金、助成金、支援制度等）の情報提供。

③宿泊・交通分科会の意見

航空路線	・航空運賃が高額で便数が少ない。 ・離発着時刻が観光に不向きで、増便も時間が近い。
島内交通	・空港と繁華街を結ぶ移動手段の検討。 ・自転車向けの島内コース案内（紙媒体、デジタルマップ）。
観光客アンケートへの対応	・意見の多い項目の上位 1～3 位までの課題解決に集中する。 ・解決が簡単な課題はすぐに対応する。
PR	・与論の魅力的で他の島にない場所・モノ・事を考えた PR の実施。 ・SNS の活用による PR の拡散（インフルエンサーによる拡散等）
老朽施設と高齢化	・観光ブームの頃の施設の老朽化の問題（建て替え費用、高齢化等）。 ・現在の客層に合わせた施設改修や設備更新のための費用補助。 ・きれいとういことは別問題。 ・高齢化と人手不足 ・宿泊客の夕食対応（泊食分離の推進）。

宿泊業態の変化	・ゲストハウス、1棟貸し切りの増加。 ・以前の民宿がシェアハウスに転向。
観光と災害対策	・台風時の観光客の避難。 ・台風に対する観光受入れ側の共通認識づくり。
意見収集	・必要に応じた関係者(業種別、内容別等)への意向把握。 ・定期的、計画の効果測定のための会員意向調査。

④与論町からの要望

特産品、飲食関連	・生産から販売まで総合的に支援できる支援体制等を計画に反映。 (行政の担当者設置と並行し、取りまとめて間をつなぐ体制を第6次計画で作る) ・特産品の具体的な部分は観光振興計画中に盛り込む。 ・観光協会が主体となり計画を策定。 ・役場との役割分担をしながらの事業者支援。
体験、 アクティビティ および 宿泊、交通関連	・ヨロシマランの地域側の負担軽減と参加者の高齢化が課題。 ・目的税の導入やふるさと納税の活用を検討。 ・コース等の維持管理費込のツアープログラムの費用体系等、観光の持続可能性のための財源確保の方策を計画に含める。 ・第5次計画の観光分野で、実施項目の打ち切りや継続も計画策定で検討する。

（2）第3回分科会の議論から出た検討委員の意見

第1回分科会の後、第2回、第3回の分科会が継続的に開催されました。分科会は、飲食・特産品、体験・アクティビティ、宿泊・交通の各分野の検討委員の意見をもとに議論を重ね、本計画の基本理念や基本方針につながる方向性を確認しました。

第3回分科会で抽出された意見および確認事項は以下の通りです。

①飲食・特産品分科会の意見

・観光協会が島内の農家や漁師の食材を飲食店や特産品に導入する仕組みづくりの検討 ・観光協会が仲介する漁協、農協を入れた農家と飲食店の連携体制づくりの検討 ・観光協会による事業者が求める食材と生産者が作る予定の食材のマッチングシステムと食材ロス低減の検討 ・未利用農作物(現状は廃棄や知り合いに分けている)を飲食店や特産品の原材料につなぐ仕組みづくり ・観光協会としての農協や漁協の加工施設利用や、観光協会が商品製造者として販売する可能性の検討 ・与論町の加工施設の試作以外の利用について、町が検討。今後の利活用率向上を目指す。 ・島内の飲食や特産品からの交流の創出 ・特産品販売の情報収集や書類と資料作成の事務作業をする専門人材の確保(観光協会職員として) ・観光協会が雇用する専門人材の育成 ・島外の物産展での島内の特産品や新商品の紹介と引き合い等のフィードバックの実施 ・補助制度で開発した特産品から売上の一部を観光協会へ還元 ・観光客の様々な使い方を視野に入れた現行のマップや協会サイトの構成とデザインの見直し ・観光客と島民との交流につながるマップやサイトの検討 ・観光財源の徴収方法と利用目的の検討

②体験・アクティビティ分科会の意見

- ・今後の与論島の観光振興の中でパナウル王国をどう扱うのか？
- ・今後の与論島の観光振興の中でギリシャ・ミコノス島（ミコノス市）との姉妹盟約をどう扱うのか？
- ・観光のための町並みや景観整備の方向性の検討
- ・SDGs の文言を入れる
- ・基本方針に「文化」を入れる
- ・雨天時のアクティビティや島民向け施設を使った交流プログラムの検討
- 【アクティビティの方向性】
 - 1) 与論の伝統(生活)を感じられる ～陸域のプログラムの検討
 - 2) 海の保存につながる ～環境系のプログラムの検討
 - 3) 島民と交流できるアクティビティ
- 計画に短期的課題として位置づけ、計画策定後に専用のWGによる検討の実施を検討
- ・陸域のガイド人材の育成
- 【抽出されたアイデア】
 - 島内の中学生、高校生のガイドツアーの検討～企画～造成
 - 探求学習の海洋教育の内容を反映させたツアーコンテンツの検討～企画～造成
 - 島外出身者による on-line ツアーの検討～企画～造成
- ・雨や日差しを遮り、良い景観の中で休憩したり時間を過ごせる場所の整備
- ・既存の観光拠点を現在の観光スタイルに即した形に再編集と再整備の検討
- ・渚の交番に関する住民や関係者による議論やステークホルダーの合意形成の継続

③宿泊・交通分科会の意見

- ・現行の宿泊施設を対象とする各種の基礎データ収集
(客室数、事業継続意向、後継者の有無等の調査)
- ・民宿、ゲストハウスの収益率向上について小規模な宿で足並みを揃える合意形成の検討
(宿泊価格の見直し、送迎の負担軽減策等)
- ・作業の効率化による従来型宿泊業からの脱却、後継者が継ぎたくなる業種への転換の検討
- ・大まかな誘客ターゲットの設定と新規宿泊施設の誘致による宿泊キャパの向上
(一棟貸しやコテージ化に伴う複数ターゲットの設定/ex.子連れ、ひとり旅、ワーケーション)
- ・景観条例の整備と島内の地区別ゾーニングおよび開発可能エリアの把握
- ・開発可能エリアの土地登記等の適正化
- ・宿泊施設の改修補助と改修条件の検討～制度化へ向けた取り組みの実施
- ・島内の公共交通の利便性向上の検討
(社会実験へ向けた宿泊施設と交通事業者との合意形成の実施)
- ・チェックアウト後の茶花～空港、港への旅客輸送方策の検討
- ・観光協会の収益事業としての手荷物一時預りおよび、滞留場所づくりの検討
(有償手荷物預かりの社会実験、トラベラーズカフェの整備等)
- ・島内フェリー代理店との連携による旅客の手荷物輸送システム構築の検討
- ・与論町役場による台風時の来島自粛要請の実施
- ・安定的な働き手の確保の方策検討
- ・観光協会のサイト、マップの見直しと検討の場の設置
- ・島内の主要な観光施設を対象とする案内標識整備の検討

（3）その他の調査に関する意見

検討委員会の議論では、観光協会会員アンケート以外に島民や来島者等の意向把握が必要な事項が出てきました。それらの意見を以下に示します。

- ・観光協会会員以外の島内住民の観光に対する意向把握
- ・特産品関係者へのアンケート
- ・台風や大きな災害への観光事業者の対応や対策(台風時の避難所等)の把握
- ・スマホ決済、QRコード、クレジットカードの割合の把握と島内のキャッシュレス化の把握
- ・観光客向けアンケート

第4章 与論町観光振興計画

4-1 基本理念

検討委員会や分科会で出た検討委員からの意見や議論をもとに、与論島の観光振興を進めるための大きな方向を指し示す以下の3つの基本理念を設定しました。

これらの基本理念のもと、基本方針、基本施策と基本施策を構成する各種の具体策を検討しました。

【基本理念1】

与論島の自然環境や集落景観に配慮した持続可能な観光地域づくりに取り組む

良好な自然環境や昔ながらの集落景観を維持しながら、地域に負担の少ない持続可能な与論島の観光について、観光地域づくりの観点から各種の取組を進めます。与論町内の行政機関との連携により、観光地域づくりに必要な制度整備やしくみづくりもあわせて行います。

【基本理念2】

与論島の生活文化の保存継承および、地域住民への配慮と交流を軸とする陸域観光を推進する

これまでの海の観光に加え、陸域の観光や島の生活文化についても観光資源ととらえ、与論島を訪れる多くのお客様に島の人との交流を通じ、島を知り愛着をもつ関係人口づくりのための観光交流に取り組めます。

あわせて、島の自然から文化まで多様な資源を守り継承するために、来島者への責任ある旅行行動の推奨と島民意識の向上を目指します。

【基本理念3】

与論島の集客交流産業の生産性向上と観光従事者の仕事満足度の拡充を目指す

観光地域づくりでは、DXの推進による観光事業者と顧客双方の利便性の向上や観光従事者の満足度の重視、観光産業とは直接のかかわりのない地域の住民の観光への理解が重要であることが分かってきました。

観光を産業としてとらえるなかで、与論島の観光が今以上に魅力的な産業となり、今後も継続するために観光事業者の収益増加と仕事への誇りや充実度を高め、来訪客の安全を確保しながら質的向上を図る長期的な取組を進めます。

4-2 基本方針

3つの基本理念のもと、計画を進めるための基本方針を設定しました。基本方針は与論島の観光振興のために取り組む必要のある各分野を想定し、10項目を抽出しました。

基本理念1

与論島の自然環境や集落景観に配慮した持続可能な観光地域づくりに取り組む

基本理念1にもとづく基本方針

- 1-1 魅力的な島の環境維持と現代の観光にあわせた島の景観整備
- 1-2 持続可能な観光地域づくりのための各種基盤整備
- 1-3 与論町および関係機関との連携強化による与論島のDMOとしての観光推進体制づくり

基本理念2

与論島の生活文化の保存継承および、地域住民への配慮と交流を軸とする
陸域観光を推進する

基本理念2にもとづく基本方針

- 2-1 生活文化を反映させたアクティビティの開発および商品造成
- 2-2 新たな観光と既存の観光をつなぐルールづくり
- 2-3 島(地域)らしい食の提供と特産品づくりのための島内システムの構築

基本理念3

与論島の集客交流産業の生産性向上と観光従事者の仕事満足度の拡充を目指す

基本理念3にもとづく基本方針

- 3-1 リゾート地としての快適性や利便性向上と宿泊業の負担軽減策の実施
- 3-2 スムーズな島内移動のための域内交通のしくみづくり
- 3-3 主要なターゲットへ向けた適切なプロモーション方策とツールの検討
- 3-4 観光情報の発信強化と観光統計情報の広範な公開

4-3 基本施策

3つの基本理念にもとづく10項目の基本方針のもと、基本方針を実現するための方策を基本施策として設定しました。基本施策を構成する実施項目は、（一社）ヨロン島観光協会が取り組む各方策で、与論島の観光振興で既に民間や公的な主体によって取り組まれているものも含んでいます。

【基本理念1】

与論島の自然環境や集落景観に配慮した持続可能な観光地域づくりに取り組む

基本理念1にもとづく基本方針

1-1 魅力的な島の環境維持と現代の観光にあわせた島の景観整備

①レスポンスブルツーリズム（責任ある観光行動）※1の推進による持続可能な観光地域づくり

— ①の実施項目 —

- ・レスポンスブルツーリズムの推進と環境保全、安全管理のルール整備
～島内関係者による環境保全に関するルールづくり
～島内関係者による安全管理に関するルールづくり
- ・海洋教育と連動した町民全体の環境意識の醸成
- ・環境に配慮したマリナクティビティ先進地を目指す各種取組の実施
～与論島としてのプロジェクトマナティへの参画
～係留ブイの設置によるサンゴ保全
～環境にやさしい日焼け止めの利用推奨
～船舶燃料へのリサイクル植物油利用推進
～ハイブリッド小型船導入の検討

【注釈】 ※1レスポンスブルツーリズム（責任ある観光）：観光客もツーリズムを構成する要素であると捉え、観光客が意識や行動に責任を持つことで、より良い観光地形成を行っていかうという考え方であり、自分の行動が地域や環境へ負荷を与えてしまうかも知れないことを認識し、自律した行動を実践していく、これからの観光のカタチです。（ハワイ州 レスポンスブル・ツーリズム 情報サイトより）

https://www.allhawaii.jp/malahawaii/responsible_tourism/#:~:text=%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%9D%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%96%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0%EF%BC%88%E8%B2%AC%E4%BB%BB%E3%81%82%E3%82%8B%E8%A6%B3%E5%85%89,%E3%81%AE%E8%A6%B3%E5%85%89%E3%81%AE%E3%82%AB%E3%82%BF%E3%83%81%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82

②景観条例整備

— ②の実施項目 —

- ・行政機関への働きかけと協力
- ・景観デザイン方針づくりへの協力
- ・与論島らしい景観の抽出への協力

③安全な社会基盤整備

— ③の実施項目 —

- ・行政機関への働きかけと協力
- ・建設部署も交えた社会基盤整備の体制づくり

④観光案内表示の見直し

— ④の実施項目 —

- ・行政機関への働きかけと協力
- ・更新と新設、デザイン統一の検討

基本理念1にもとづく基本方針

1-2 持続可能な観光地域づくりのための各種基盤整備

①観光財源の検討

— ①の実施項目 —

- ・観光協会の収益事業の検討および実施
- ・観光協会の財政運営体制整備（島外有識者による経営指導等）
- ・法定外目的税等の導入の検討および実施

②計画の検証体制整備

— ②の実施項目 —

- ・計画の定期的な見直しの実施と見直しの実施体制の整備
 - ・PDCA サイクル※2の確立および実施体制づくり
 - ・本計画の検証は、与論町総合振興計画と同タイミングで実施
- 【注釈】※2 PDCA サイクル：品質改善や、業務改善活動などで広く活用されているマネジメント手法 のひとつであり、「計画(Plan)」「実行(Do)」「評価(Check)」「改善(Action)」のプロセスを順に実施していくもの。（観光庁 H25 年「地域発 滞在プログラムの手引き ～地域の目指す姿に近づくための PDCA サイクル推進」より）

https://www.mlit.go.jp/kankocho/taizai_tebiki.pdf

③観光の危機管理体制整備

— ③の実施項目 —

- ・災害対策の検討と実施
 - ～台風、津波等の定期的な避難訓練の実施
 - ～感染症対策方針の確認、検討および感染症対策勉強会の実施
- ・安全管理方策の検討と実施
 - ～安全な観光のための注意喚起（協会サイト、印刷物等）の実施
 - ～島内全域で陸と海の危険個所の周知
 - ～スキンド이버のデジタル届け出提出等のルールづくり
 - ～デジタルマップと連動した危険個所の情報掲載
 - ～海上でも分かる緊急事態周知方策の検討（パトランプ設置）
- ・協会の危機管理上のメリット創出
 - ～顧問弁護士制度の検討

④観光人材の確保

— ④の実施項目 —

- ・特定地域づくり組合と連携した担い手確保の検討
 - ・島外観光地等との人材交流、人材確保方策の検討
 - ～在席型出向制度（雇用シェア）※3等の検討
- 【注釈】※3 在席型出向制度（雇用シェア）：出向元企業と出向先企業との間の 出向契約によって、労働者が出向元企業と出向先企業 の両方と雇用契約を結び、一定期間継続して勤務することをいいます。出向元及び出向先双方と出向労働者との間に労働契約関係が存在。（厚生労働省サイト「在席型出向支援」の「在籍型出向リーフレット」より）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/jigyounushi/page06_00001.html

⑤会員意見の収集と反映

— ⑤の実施項目 —

- ・観光協会会員への定期的な意見収集システムの確立
 - ～業種別（宿泊、飲食、特産品、アクティビティ等）に特化したアンケートの実施/年1回実施し結果を比較
- ・事業への会員意見の反映とフィードバックの実施
 - ～観光協会会員向けニュースレターの配信

基本理念1にもとづく基本方針

1-3 与論町および関係機関との連携強化による与論島のDMOとしての観光推進体制づくり

① 島内関係機関との連携強化

— ①の実施項目 —

- 農協、漁協、商工会、ヨロンスポーツクラブ(以下、SC)、エコツアーガイド連絡協議会、与論社協等との連携強化と役割分担の明確化
 - ～アクティビティ：観光協会とSCで、予約サイトで受けたツアープログラムのオペレーションや収益配分に取り組む
 - ～特産品開発：農協、漁協、商工会等で、開発～販売までの流れが個別化しないために観光協会が一元的に把握、定期会合の開催による情報共有
 - ～情報発信：観光協会、与論町、SC、その他関連団体等による情報共有と役割分担による作業の実施
 - ～渚の交番の運営：観光協会、SC

② 島内住民との交流創出

— ②の実施項目 —

- 地域行事（十五夜踊り）や住民活動（海謝美、公民館講座等）への観光客の参加の促進
 - ～各種活動別に観光客の参加方法を検討
- 与論町民が島内観光に参加するために機会づくり
 - ～島民価格の設定による各種の体験販売（観光協会による仲介）
 - ～住民客データ収集とあわせた島民割引クーポン制度の整備
 - ～住民と観光客の利用エリアの検討

③ 島外交通事業者との連携体制整備

— ③の実施項目 —

- 航空会社、フェリー会社との定期的な情報交換の実施
 - ～行政との連携による営業や情報提供の強化
- 各種交通機関との連携による旅行商品造成
 - ～観光協会による島外交通事業への企画提案の実施

④ 奄美群島各島、沖縄島北部地域との連携による広域周遊観光の推進

— ④の実施項目 —

- 奄美群島の各島との連携推進と広域周遊ルートの構築
 - ～群島の各島や交通事業者との連携による旅行商品造成
- 沖縄北部地域との連携推進と広域周遊ルートの構築
 - ～国頭村や交通事業者との連携による旅行商品造成

【基本理念2】

与論島の生活文化の保存継承および、地域住民への配慮と交流を軸とする陸域観光を推進する

基本理念2にもとづく基本方針

2-1 生活文化を反映させたアクティビティの開発および商品造成

①与論島の生活文化が伝わる陸域観光のコンテンツ開発

— ①の実施項目 —

- ・ 星空、十五夜踊り、アドベンチャーツーリズム、集落あるき、まちあるき等のコンテンツの開発
- ～観光への利活用が少ないコンテンツの利用促進

②与論島の少し昔の海の暮らしを継承する体験コンテンツの開発

— ②の実施項目 —

- ・ 漁具づくり、干潮時のリーフの生物観察等の漁撈文化の継承等
- ・ 海の生物を観察する学びのある海浜体験等
- ～リーフウォークのコンテンツ化の検討

③雨天時、悪天候時向け観光コンテンツの開発

— ③の実施項目 —

- ・ 雨天時、悪天候時に実施可能なプログラムの確認と開発
- ～既存の観光施設、飲食店、宿泊施設内等の場所ごとのコンテンツの検討
- ～見学（酒蔵、工房等）、体験（島内の作家、福祉施設等）、公共施設利用（図書館、スポーツ施設等）の活用方策の検討
- ～渚の交番の雨天時、荒天時コンテンツの検討

④多様なガイド人材の創出と育成

— ④の実施項目 —

- ・ 観光事業者以外で集落等の案内ができる人材づくり
- ～多様な人材によるガイド育成の推進
- ～中高生による島内ガイドの育成

基本理念2にもとづく基本方針

2-2 新たな観光と既存の観光をつなぐルールづくり

①従来型の観光施設の柔軟な利活用の推進

— ①の実施項目 —

- 従来観光施設の再編集と広範かつ柔軟な利活用方策の検討
～サザンクロスセンター、ゆんぬ体験館等の夜間利用や飲食物販等の方策の検討
～サビチラ館、多目的運動場等の体育施設の活用の促進
- ゾーニングを視野に入れた島内の観光エリア（茶花、大金久、与論城址周辺等）の整備方針の明確化

②新しい観光スタイルの誘致と受入れ体制の構築

— ②の実施項目 —

- 島の規模と客層を踏まえたワーケーション、サスティナブルツーリズム
（スタディツアー、キャンプ等を含む）、ウェルネスツーリズム等の受入れ体制整備
～島内の wi-fi 整備とコワーキング機能の拡充および情報発信
～観光施設や飲食、宿泊施設等のユニバーサル対応の促進
 - 県内や群島内等のマイクロツーリズムの受入れ強化
 - FIT※⁴客の受入れ強化
 - 小規模人数の修学旅行の受入れ継続
 - 男性のひとり旅やボラバイト等の新しい客層の誘客強化
- 【注釈】※⁴ FIT: パッケージツアーを利用せずに個人で旅行を手配する人が増加しています。こうした個人手配の海外旅行のことをインバウンド用語で FIT (Foreign Independent Tour/Traveler) と呼びます。(訪日ラボより)

<https://honichi.com/news/2019/06/05/aboutfit/>

基本理念2にもとづく基本方針

2-3 島(地域)らしい食の提供と特産品づくりのための島内システムの構築

①特産品全般のワンストップ支援体制整備

— ①の実施項目 —

- 特産品の開発、生産、販売までを網羅する一括支援の検討
～観光協会内への専任の特産品担当者の設置

②供給可能な地元食材や農家等の掘り出し

— ②の実施項目 —

- 飲食特産品事業者と農業漁業関係者の交流機会づくり
～農林水産物マルシェの検討
～食材供給が可能な島内農家のリスト作成等

③特産品の開発を視野に入れた島内事業者のマッチング

— ③の実施項目 —

- 特産品開発につながる島内事業者マッチングの検討
～飲食店の参画による特産品開発
～農業、漁業関係者と島内事業者による特産品開発

④販路別特産品の整理と販売戦略の整備

— ④の実施項目 —

- 島内向け（飲食店、宿泊施設）原材料と島外向けの土産物、加工品に適した特産品のリスト作成
- リスト化した特産品の販売戦略と販路の検討
～島内宿泊施設への新商品等の情報提供の実施
- 観光協会の商品として販売する特産品の抽出

【基本理念3】

与論島の集客交流産業の生産性向上と観光従事者の仕事満足度の拡充を目指す

基本理念3にもとづく基本方針

3-1 リゾート地としての快適性や利便性向上と宿泊業の負担軽減策の実施

①顧客の利便性向上方策の検討と実施

— ①の実施項目 —

- ・観光客の滞留場所の設置と拡充
～観光案内所（観光協会事務所）や民間施設等の活用による島内のトラベラーズラウンジ※⁵機能の拡充
～手荷物の有料一時預かりサービスの実施
【注釈】※⁵ トラベラーズラウンジ（空港ラウンジとして使う文言）：空港ラウンジとは、搭乗前に乗客が快適に過ごすためのさまざまなサービスを提供している待合室のこと。（タビサポより）
<https://honichi.com/news/2019/06/05/aboutfit/>

②宿泊事業者の負担軽減策の検討と実施

— ②の実施項目 —

- ・宿泊客の送迎方法、泊食分離、スポット的な業務支援のマンパワー確保等の検討
- ・「後継者が継ぎたくなる宿泊業」への転換方策の検討と宿泊施設の経営課題解決への相談窓口の設置
～経営や継業の専門家紹介による宿泊業の収益向上策の検討
～朝食、夕食の調理作業負担軽減策（ケータリング、島内飲食店との提携等）の検討
- ・宿泊施設等の関係者の負担が少ないイベント実施方策の検討
～島内の宿泊受入れ容量：684人/日（コロナ禍で減少傾向）
～1日に集中していた大規模イベント開催を数日間開催や複数回開催の中小規模イベントに変えていく。

基本理念3にもとづく基本方針

3-2 スムーズな島内移動のための域内交通のしくみづくり

①スムーズな島内移動手段の検討

— ①の実施項目 —

- ・観光客と住民利便性を担保する移動手段の検討
～広範な関係者を巻き込んだ公共交通の社会実験の実施
～島内移動や地域内移動の新システムの把握と検討

②手荷物の島内輸送システムの検討

— ②の実施項目 —

- ・手荷物の一時預かりとあわせた島内輸送システムの検討
～フェリー代理店や運送事業者との連携方策の可能性検討

基本理念3にもとづく基本方針

3-3 主要なターゲットへ向けた適切なプロモーション方策とツールの検討

①観光統計データにもとづくターゲット設定

— ①の実施項目 —

- ・コロナ後を見据えた誘客方策の検討
- ・ターゲットの絞り込みと誘客方策の検討

②ターゲットに即したプロモーションの実施

— ②の実施項目 —

- ・既存のプロモーションの確認
- ・実施してきた各種誘客事業成果にもとづくターゲットの絞り込み
- ・設定するターゲット別のPR方策の検討

③与論島の規模に適した MICE※6の誘致

— ③の実施項目 —

- ・考古学や民俗学、文化人類学等の歴史文化等の小規模な学会や研究会、研修会の誘致
- ・環境や海洋に関連する小規模な学会や研究会、研修会の誘致

【注釈】※6 MICE(マイス):企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。MICE は、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、一般的な観光とは性格を異にする部分が多い。このため、観光振興という文脈でのみ捉えるのではなく、MICE について、「人が集まる」という直接的な効果はもちろん、人の集積や交流から派生する付加価値や大局的な意義についての認識を高める必要がある。

(観光庁サイト「MICE の誘致・開催の推進/1. MICE とは？/1. MICE の意義」より)

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/mice.html>

④与論島の規模に適したスポーツツーリズムの誘致

— ④の実施項目 —

- ・各種スポーツチームの自主トレや大学のスポーツ部の誘致
～サビチラ館、多目的運動場等の体育施設の活用の促進
- ・スポーツツーリズムの受入れに向けたPRや周知活動の実施

基本理念3にもとづく基本方針

3-4 観光情報の発信強化と観光統計情報の広範な公開

①観光DX※7の推進

— ①の実施項目 —

- 観光客向デジタル情報サービスの提供方法の検討
～デジタルマップシステムの導入とスマホの観光情報提供の検討
～デジタルマップシステムによる周遊データ収集の検討
- 観光協会内の事務作業のデジタル化の推進
～スタッフの予定や業務の進捗管理のデジタル化
～共有サーバーによる業務データ管理
～観光協会スタッフや役員向けデジタル研修の実施

【注釈】※7 DX/デジタルトランスフォーメーション：企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。（経済産業省 H30 年「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（DX 推進ガイドライン）Ver. 1.0」より）

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/dx/dx_guideline.pdf

②情報発信の強化

— ②の実施項目 —

- 既存サイトの見直しと受賞動画等の質の高い既存コンテンツの多角的な利活用
- マップデザインの見直しと各種体験のテーマ別マップの整備
- 更新が容易な飲食店情報提供方策の検討

③観光統計データ収集と分析の実施

— ③の実施項目 —

- 観光協会会員への収集データの提供
- 収集したデータにもとづく観光動向予測の実施

4-4 アクションプランとロードマップ

【基本理念1】 与論島の自然環境や集落景観に配慮した持続可能な観光地域づくりに取り組む										
基本方針1 魅力的な島の環境維持と現代の観光にあわせた島の景観整備										
基本施策① レスポンシブルツーリズム（責任ある観光行動）の推進による持続可能な観光地域づくり										
【主要な実施主体】 与論町、観光協会、小中高校、漁協、農協、商工会他の各種団体、島内民間企業、島内地域団体等										
・レスポンシブルツーリズム（責任ある観光行動）の推進と環境保全、安全管理のルール整備／短期（2～3年以内） ・海洋教育と連動した町民全体の環境意識の醸成										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎環境保全に関するルールづくり										
◎安全管理に関するルールづくり										
◎海洋教育と連動した環境意識の醸成										
・環境に配慮したマリンアクティビティ先進地を目指す各種取組の実施／実施項目別に短期（2～3年以内）、中期（5年以内）、長期（10年）（与論町、観光協会、小中高校、漁協、農協、商工会他の各種団体、島内民間企業、島内地域団体等）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎与論島としてのプロジェクトマナティへの参画										
●係留ブイの設置によるサンゴ保全										
◎環境にやさしい日焼け止めの利用推奨										
●船舶燃料へのリサイクル植物油利用推進										
●ハイブリッド小型船導入の検討										
基本施策② 景観条例整備 【主要な実施主体】 与論町 協力：観光協会、自治公民館										
・行政機関への働きかけ、景観デザイン方針づくり、与論島らしい景観の抽出／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎行政機関への働きかけ										
◎与論島らしい景観の抽出										
●景観デザイン方針づくり～条令化										

基本施策③ 安全な社会基盤整備 【主要な実施主体】 与論町、警察、鹿児島県、関連する道路管理者等 協力：観光協会										
・行政機関への働きかけ、建設部署も交えた社会基盤整備の体制づくり／中期（5年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●現状確認→行政機関への働きかけ										
●建設部署も交えた社会基盤整備の体制づくり										
基本施策④ 観光案内表示の見直し 【主要な実施主体】 与論町、警察、鹿児島県、関連する道路管理者、電力会社、消防等 協力：観光協会										
・行政機関への働きかけ、更新と新設、デザイン統一の検討／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●現状確認→行政機関への働きかけ										
●更新と新設箇所の確認										
●デザイン統一の検討→案内表示の設置										
基本方針2 持続可能な観光地域づくりのための各種基盤整備										
基本施策① 観光財源の検討 【主要な実施主体】 観光協会 協力：与論町										
・観光協会の収益事業の検討と実施、観光協会の財政運営体制整備（島外有識者による経営指導等）／短期（3年以内） ・法定外目的税等の導入の検討および実施／中長期（8年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎観光協会の収益事業の検討と実施										
●観光協会の財政運営体制整備										
●法定外目的税等の導入の検討および実施										
基本施策② 計画の検証体制整備 【主要な実施主体】 観光協会＜特に役員、策定委員＞ 協力：与論町										
・計画の検証体制の整備と定期的な検証の実施／短期（2年以内） ・PDCA サイクルの確立／短期（2年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎計画の検証体制の整備と定期的な検証の実施										
●PDCA サイクルの確立										

基本施策③ 観光の危機管理体制整備 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、漁協、マリン事業組合、島内民間企業等										
・災害対策の検討と実施／短期（3年以内） ・安全管理方策の検討と実施／短期（3年以内） ・協会の危機管理上のメリット創出／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎台風、津波等の定期的な避難訓練の実施（毎年実施）										
◎感染症対策方針の確認、感染症対策勉強会の実施										
◎安全な観光のための注意喚起(web、印刷物等)の実施										
◎島内全域で陸と海の危険個所の周知										
●スキンド이버のデジタル届け出提出等のルールづくり										
●デジタルマップと連動した危険個所の情報掲載										
●海上でも分かる緊急事態周知方策の検討（パトランプ等）										
●協会の危機管理上のメリット創出										
基本施策④ 観光人材の確保 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、商工会他の各種団体、島内民間企業、島内地域団体等										
・特定地域づくり組合と連携した担い手確保の検討、島外観光地等との人材交流、人材確保方策の検討／中期（5年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●特定地域づくり組合と連携した担い手確保の検討										
●島外観光地等との人材交流、人材確保方策の検討										
基本施策⑤ 会員意見の収集と反映 【主要な実施主体】 観光協会 協力：与論町										
・観光協会会員への定期的な意見収集システムの確立～業種別アンケートの実施／短期（3年以内） ・事業への会員意見の反映とフィードバックの実施～観光協会会員向けニュースレターの配信／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎観光協会会員への定期的な意見収集システムの確立										
●事業への会員意見の反映とフィードバックの実施										

基本方針3 与論町および関係機関との連携強化による与論島のDMOとしての観光推進体制づくり

基本施策① 島内関係機関との連携強化 【主要な実施主体】 観光協会、与論町、その他島内の関連する組織団体

- ・農協、漁協、商工会、ヨロン SC、エコツアーガイド連絡協議会、与論社協等との連携強化と役割分担の明確化／中期（5年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎関連する組織団体の役割分担の明確化										
●アクティビティ：ツアープログラム販売と収益化										
●特産品開発：進捗と状況の把握、情報共有の定期会合										
●情報発信：関連団体等による情報共有～作業実施										
●渚の交番の運営（観光協会、SC）										

基本施策② 島内住民との交流創出 【主要な実施主体】 観光協会、公民館、島内民間団体、島内民間施設、集落、島内農家等の関係者

- ・地域行事（十五夜踊り）や住民活動（海謝美、公民館講座等）への観光客の参加の促進／中期（5年以内）
- ・与論町民が島内観光に参加するための機会づくり／中期（5年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●各種活動別の観光客の参加方法を検討										
●島民価格の設定による各種の体験販売										
●住民客データ収集と島民割引クーポン制度の整備										
●住民と観光客の利用エリアの検討										

基本施策③ 島外交通事業者との連携体制整備 【主要な実施主体】 観光協会 協力:与論町										
・航空会社、フェリー会社との定期的な情報交換の実施／短期（3年以内） ・各種交通機関との連携による旅行商品造成／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎島外交通事業者への行政と連携した営業、情報提供										
●島外交通事業者との連携による旅行商品造成～販売										
基本施策④ 奄美群島各島、沖縄島北部地域との連携による広域周遊観光の推進 【主要な実施主体】 観光協会 協力:与論町										
・奄美群島の各島との連携推進と広域周遊ルートの構築／中期（5年以内） ・沖縄北部地域との連携推進と広域周遊ルートの構築／中期（5年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●群島の各島や交通事業者との連携による旅行商品造成										
◎国頭村や交通事業者との連携による旅行商品造成										

【基本理念2】 与論島の生活文化の保存継承および、地域住民への配慮と交流を軸とする陸域観光を推進する										
基本方針1 生活文化を反映させたアクティビティの開発および商品造成										
基本施策① 与論島の生活文化が伝わる陸域観光のコンテンツ開発										
【主要な実施主体】 与論町、観光協会、エコツアーガイド連絡協議会、各集落、島内地域団体等										
・ 星空、十五夜踊り、アドベンチャーツーリズム、集落あるき、まちあるき等のコンテンツの開発と島内の関係団体との連携強化／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●観光の利活用が少ないコンテンツの利用促進										
基本施策② 与論島の少し昔の海の暮らしを継承する体験コンテンツの開発										
【主要な実施主体】 与論町、観光協会、漁協、マリン事業者組合、各集落、エコツアーガイド連絡協議会、島内地域団体等										
・ 漁具づくり、干潮時のリーフの生物観察等の漁撈文化の継承可能なコンテンツの開発と島内の海の関係団体との連携強化／短期（3年以内）										
・ 海の生物を観察する学びのある海浜体験コンテンツの開発と島内の海の関係団体との連携強化／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●漁撈文化の継承につながる体験コンテンツ開発										
◎海の生物観察、リーフウォーク等のコンテンツ化										
基本施策③ 雨天時、悪天候時向け観光コンテンツの開発 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、島内民間事業者、島内地域団体等										
・ 雨天時、悪天候時に実施可能なプログラムの確認と開発および島内の官民施設との連携／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●店舗、宿泊施設等の場所毎コンテンツの検討										
●見学、体験、公共施設の活用方策の検討										
●渚の交番の雨天時、荒天時コンテンツの検討										
基本施策④ 多様なガイド人材の創出と育成										
【主要な実施主体】 与論町、観光協会、エコツアーガイド連絡協議会、島内地域団体、中学校、高等学校、教育委員会等										
・ 観光事業者以外で集落等の案内ができる人材の育成と地域の組織団体との連携／中長期（8年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●多様な人材によるガイド育成の推進										
●中高生による島内ガイドの育成										

基本方針2 新たな観光と既存の観光をつなぐルールづくり

基本施策① 従来型の観光施設の柔軟な利活用の推進 【主要な実施主体】 観光協会、SC 協力：与論町、教育委員会

- ・従来観光施設の再編集と広範かつ柔軟な利活用方策と魅力や快適性を高める運営の実施／中期（5年以内）
- ・景観条例の整備や与論島らしい景観の抽出とゾーニングを視野に入れた島内観光エリアの整備方針の設置／中期（5年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●既存施設の夜間利用、飲食物販等の方策検討										
●既存スポーツ施設の観光活用促進方策の検討										
●観光エリアの整備方針の明確化（ゾーニングを想定）										

基本施策② 新しい観光スタイルの誘致と受入れ体制の構築 【主要な実施主体】 観光協会 協力：与論町、社会福祉協議会

- ・島の規模と客層を踏まえたワーケーション、サスティナブルツーリズム（スタディツアー、キャンプ等）、ウェルネスツーリズム等の受入れ体制整備／短期（3年以内）
- ・県内や群島内等のマイクロツーリズムの受入れ強化／短期（3年以内）
- ・FIT 客の受入れ強化、男性のひとり旅やボラバイト等の新しい客層の誘客強化／短期（3年以内）
- ・小規模人数の修学旅行の受入れ継続／短期（3年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●島内の wi-fi 整備とコワーキング機能の拡充、情報発信										
●観光施設や飲食、宿泊施設等のユニバーサル対応の促進										

基本方針3 島(地域)らしい食の提供と特産品づくりのための島内システムの構築

基本施策① 特産品全般のワンストップ支援体制整備 【主要な実施主体】 観光協会 協力：与論町

- ・特産品の開発、生産、販売までを網羅する一括支援と島内の関係団体との連携強化／短期（3年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎観光協会内への専任の特産品担当者の設置										

基本施策② 供給可能な地元食材や農家等の掘り出し 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、農協、漁協、旅館組合、飲食店組合、商工会他の各種団体、島内民間企業等										
・島内の関係団体との連携による飲食特産品事業者と農業漁業関係者の交流機会づくり／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●農林水産物マルシェの検討～試行～定着化？										
◎食材供給が可能な島内農家のリスト作成										
基本施策③ 特産品の開発を視野に入れた島内事業者のマッチング 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、農協、漁協、旅館組合、飲食店組合、商工会他の各種団体、島内民間企業等										
・島内の関係団体との連携による特産品開発につながる島内事業者マッチングの実施／中期（5年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●飲食店の参画による特産品開発										
●農業、漁業関係者と島内事業者による特産品開発										
基本施策④ 販路別特産品の整理と販売戦略の整備 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、商工会他の各種団体、島内民間企業等										
・島内の関係団体との連携による島内向け原材料（飲食店や宿泊施設へ提供する食材等）と島外向け特産品（土産物、加工品向けの特産品）のリスト作成／中期（5年以内） ・島外向け特産品リストに記載した商品の販売戦略の検討と販路開拓／中期（5年以内） ・観光協会の商品として販売する特産品の抽出／中期（5年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎島内宿泊施設への新商品等の情報提供の実施										
●原材料と特産品のリスト作成										
●観光協会の商品として販売する特産品の抽出										

【基本理念3】 与論島の集客交流産業の生産性向上と観光従事者の仕事満足度の拡充を目指す										
基本方針1 リゾート地としての快適性や利便性向上と宿泊業の負担軽減策の実施										
基本施策① 顧客の利便性向上方策の検討と実施 【主要な実施主体】 観光協会、民間観光事業者 協力：与論町										
・ 島内の主要宿泊施設と連携した観光客の滞留場所の設置と拡充の推進／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●観光案内所や民間施設のトラベラーズラウンジ機能拡充										
●手荷物の有料一時預かりサービスの実施										
基本施策② 宿泊事業者の負担軽減策の検討と実施 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、旅館組合、商工会等										
・ 宿泊客の送迎方法、泊食分離、スポット的な業務支援のマンパワーの確保／中期（5年以内） ・ 「後継者が継ぎたくなる宿泊業」への転換方策の検討と宿泊施設の経営課題解決への相談窓口の設置／中期（5年以内） ・ 宿泊施設等の関係者の負担が少ないイベント実施方策の検討／中期（5年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
◎イベントの開催方策変更検討～試行～実施										
●経営、継業の専門家を入れた宿泊業の収益向上策検討										
●朝食、夕食の調理作業負担軽減策の検討										
基本方針2 スムーズな島内移動のための域内交通のしくみづくり										
基本施策① スムーズな島内移動手段の検討 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、旅館組合、島内交通事業者、島内運送事業者等										
・ 島内の交通事業者との連携による観光客と住民利便性を担保する移動手段の整備／中期（5年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●広範な関係者を巻き込んだ公共交通の社会実験の実施										
●島内移動や地域内移動の新システムの把握と検討										
基本施策② 手荷物の島内輸送システムの検討 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、旅館組合、島内交通事業者、島内運送事業者等										
・ 島内の輸送事業者およびフェリー代理店との連携による手荷物の一時預かりとあわせた島内輸送システムの整備／短期（3年以内）										
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●フェリー代理店や運送事業者との連携方策検討										

基本方針3 主要なターゲットへ向けた適切なプロモーション方策とツールの検討

基本施策① 観光統計データにもとづくターゲット設定 【主要な実施主体】 与論町、観光協会

- ・コロナ後を見据えた誘客方策の検討および実施体制整備／短期（3年以内）
- ・実施してきた各種誘客事業成果にもとづくターゲットの絞り込みと誘客方策の検討および継続的な事業成果の確認／短期（3年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●コロナ後を見据えた誘客方策の検討										
●ターゲットの絞り込みと誘客方策の検討										

基本施策② ターゲットに即したプロモーションの実施 【主要な実施主体】 与論町、観光協会

- ・既存の各種プロモーション方策と効果の確認／短期（3年以内）
- ・設定するターゲット別のPR方策の検討と実施／短期（3年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●既存のプロモーションの確認										
●設定するターゲット別のPR方策の検討										

基本施策③ 与論島の規模に適した MICE の誘致 【主要な実施主体】 与論町、観光協会、島内の文化財系団体、エコツアーガイド連絡協議会等

- ・考古学や民俗学、文化人類学などの歴史文化等の小規模な学会や研究会、研修会の誘致と学会の開催／短期（3年以内）
- ・環境や海洋に関連する小規模な学会や研究会、研修会の誘致と学会の開催／短期（3年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●歴史文化系の小規模学会や研究会、研修会の誘致検討										
●環境系の小規模学会や研究会、研修会の誘致検討										

基本施策④ 与論島の規模に適したスポーツツーリズムの誘致 【主要な実施主体】 与論町、教育委員会、体育協会、観光協会、SC 等

- ・各種スポーツチームの自主トレや大学のスポーツ部の合宿誘致／短期（3年以内）
- ・スポーツツーリズムの受入れに向けたPRや周知活動の実施／短期（3年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●スポーツ自主トレ、大学スポーツ部の誘致検討										
●スポーツツーリズムの受入れに向けたPRや周知活動										
●サビチラ館、多目的運動場等の体育施設の活用促進										

基本方針4 観光情報の発信強化と観光統計情報の広範な公開

基本施策① 観光DXの推進 【主要な実施主体】 与論町、観光協会

- ・観光客向けデジタル情報サービスの提供方法の検討と情報提供の実施／短期（3年以内）
- ・観光協会の事務作業のデジタル化推進および観光協会職員、会員向けのデジタル教育の実施／短期（3年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●デジタルマップシステム、スマホの観光情報提供検討										
●デジタルマップシステムによる周遊データ収集の検討										
●（協会）スタッフの予定や業務の進捗管理のデジタル化										
●（協会）共有サーバーによる業務データ管理										
●（協会）スタッフや役員向けデジタル研修の実施										

基本施策② 情報発信の強化 【主要な実施主体】 与論町、観光協会

- ・既存サイトの見直しと受賞動画等の質の高い既存コンテンツの多角的な利活用の推進／短期（3年以内）
- ・マップデザインの見直しと各種体験のテーマ別マップの整備、配布／短期（3年以内）
- ・更新が容易な飲食店情報提供方策（デジタルマップ等）の検討と整備・運用／短期（3年以内）

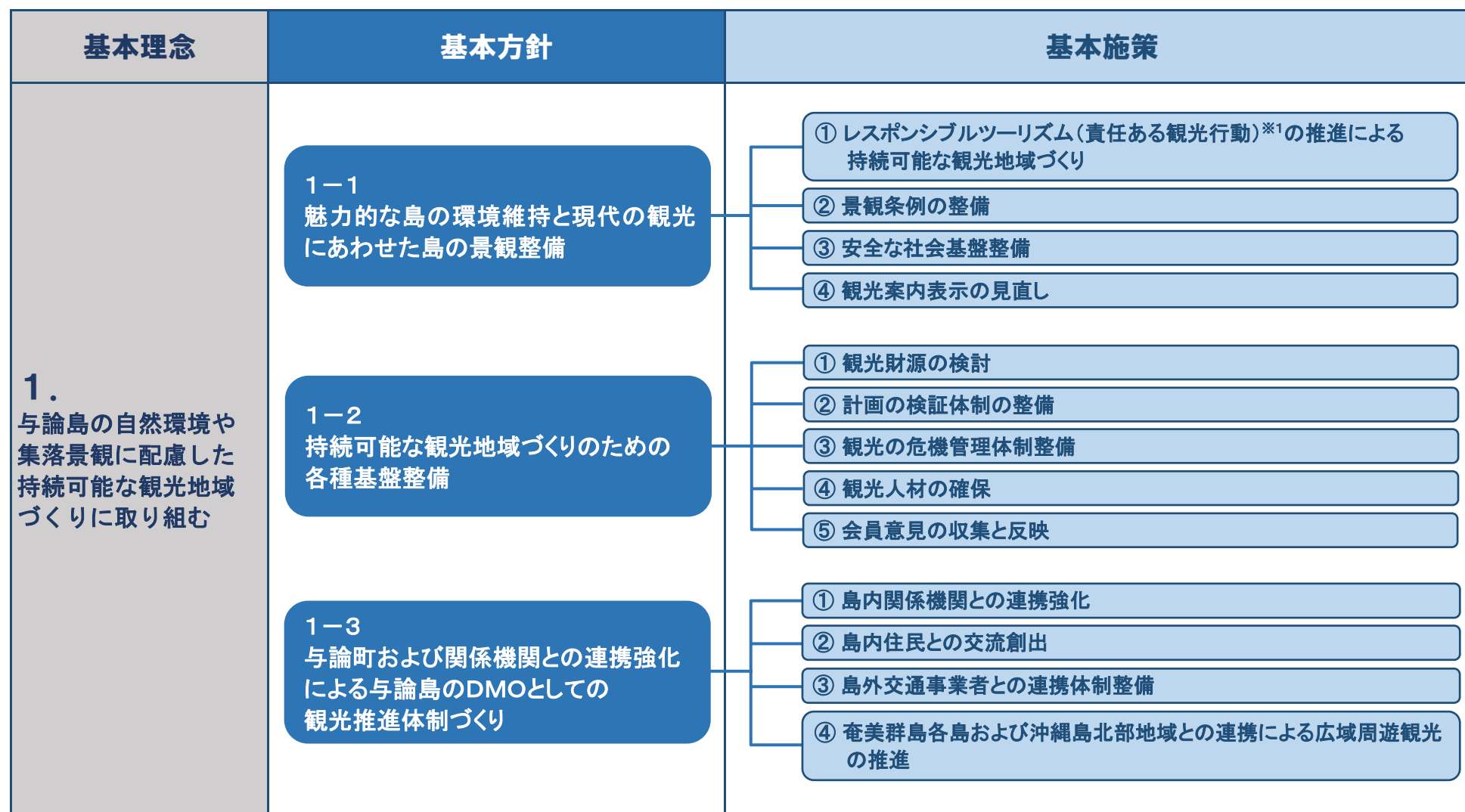
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●既存サイト見直し、既存コンテンツの多角的な利活用										
●マップデザインの見直し、テーマ別マップの整備										
●更新が容易な飲食店情報提供方策の検討										

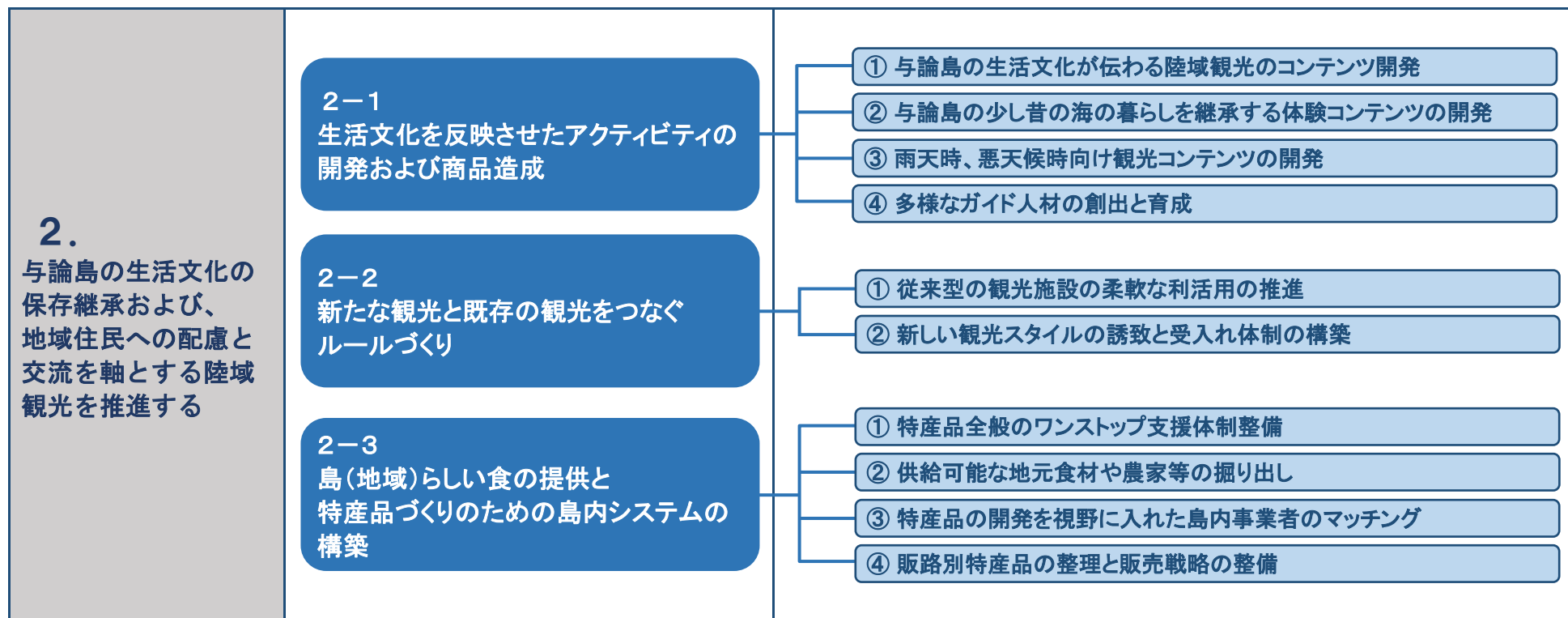
基本施策③ 観光統計データ収集と分析の実施 【主要な実施主体】 与論町、観光協会

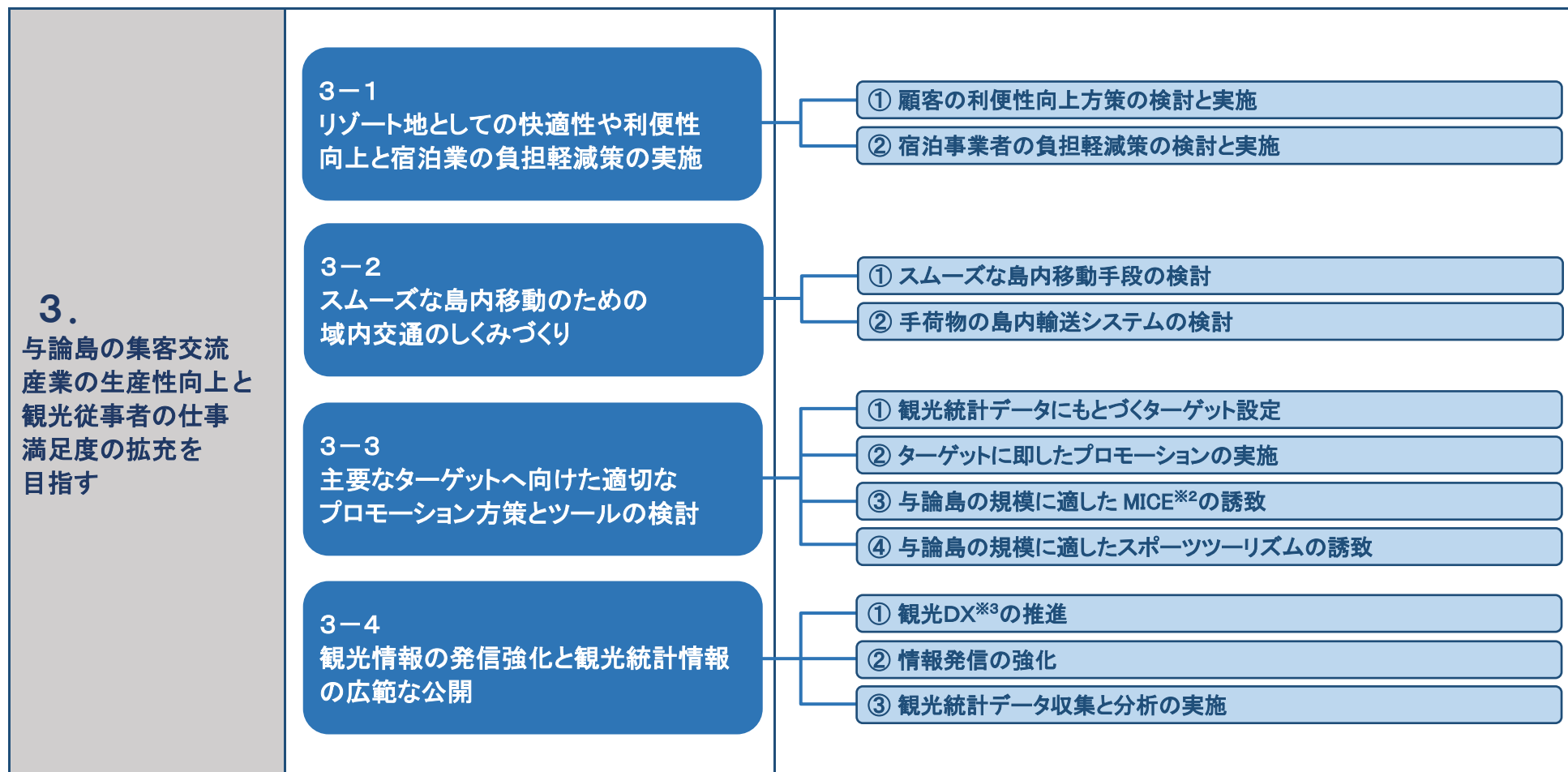
- ・観光協会会員を対象とする収集した観光統計データの提供／中期（5年以内）
- ・収集した観光統計データにもとづく観光動向予測の実施／中期（5年以内）

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
●観光協会会員への収集した観光統計データの提供										
●収集した観光統計データにもとづく観光動向予測の実施										

4-5 計画の体系図







※1 レスポンシブルツーリズム（責任ある観光）…観光客もツーリズムを構成する要素であると捉え、観光客が意識や行動に責任を持つことで、より良い観光地形成を行って
いこうという考え方であり、自分の行動が地域や環境へ負荷を与えてしまうかも知れないことを認識し、自律した行動を実践していく、これからの観光のかたち。

※2 MICE（マイス）…MICE とは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・
見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

※3 DX/デジタルトランスフォーメーション…企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビ
ジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

4-6 KGI、KPI 指標と与論島の観光受入れ容量

本計画にもとづき実施される具体的な観光振興策によって、計画目標を達成する必要があります。そのために、計画の達成度合いを測り、監視や監督するための定量的な指標の設定が求められています。

計画の達成度を把握するための定量的な指標は、KPI(Key Performance Indicator/重要業績評価指標)やKGI(Key Goal Indicator/重要目標達成指標)とされています。KPI や KGI は、観光庁によるDMO^{※1}向けのガイドラインにも以下の指標が提示されています。

※1 DMO(Destination Management/Marketing Organization):地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人 https://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000048.html

【観光庁がDMO等へ向けたガイドラインで提示している6指標(ガイドラインより抜粋)】

- ・観光地域づくりにおいて科学的なアプローチを取り入れるため、継続的なデータの収集・分析を行うことが必要である。
- ・少なくとも**延べ宿泊者数、旅行消費額、来訪者満足度、リピーター率**^{※注釈}のデータをすべて収集していることが必要である。
また、**WEBサイトのアクセス状況、住民満足度**についてもデータを収集していることが望ましい。
- ・データ収集については、取組が重複しないよう、各層の観光地域づくり法人や自治体等が協議をした上で、行うことが重要である。

※注釈

- 延べ宿泊者数**:延べ宿泊者数については、自治体が発表する統計や、観光庁による「宿泊旅行統計調査」の結果等を活用できる。一方で、これらの統計においては、市町村単位の詳細なデータまではカバーできていない場合もあるため、特に地域DMOや複数市町村による地域連携DMOにおいては、別途自ら調査を行う必要がある。
- 旅行消費額、来訪者満足度、リピーター率**:これらのデータの収集方法としては、アンケート調査票を作成の上、現場での対面調査、観光施設や宿泊施設等におけるアンケート調査、WEB上でのアンケート調査等が考えられる。

参考:「観光入込客統計に関する共通基準調査要項」 <https://www.mlit.go.jp/common/000995212.pdf>

KPI の設定では、設定した KPI があまり意識されずに行動されてしまうことに留意する必要があります。その原因として、複雑すぎる KPI、目標と KPI の因果関係の希薄さ、KPI の趣旨徹底の甘さ等が挙げられるため、それらを回避するために、KPI の項目数を多くしないことが重要です。目安としては、組織・個人に設定する KPI 項目数は 3～5 個、最大でも 10 個程度が適当であり、それ以上の項目数は理解されなくなるとされています。

時間の経過で KPI と目標との因果関係が薄れ、KPI が形骸化することも多く、組織目標・戦略の変更に応じて、KPI も柔軟に変更することが重要になります。

また、関係者の理解促進のための教育プログラムの実施や KPI 設定プロセスへの参加も重要です。

（１）与論島の観光振興へ向けたKGI および KPI指標の設定

本計画策定では、計画の達成度合いを定量的に把握するための指標についても検討委員と議論や検討を行いました。その結果、観光庁が DMO のガイドラインで示している6項目に加えて、与論島独自の指標を設定することとなりました。

以下に与論島の観光振興計画の最終的な目標となる KGI 指標と KGI の達成に向けて向上させる必要がある KPI 指標とその他の関連するKPI指標、与論島独自のモニタリング指標を示します。

【与論島の KGI および KPI 指標項目】

◎KGI 指標
年間消費額(影響指標項目:延べ宿泊者数、来訪者満足度、住民満足度、原材料の地域内調達率)
●KPI 指標 観光庁指定の DMO 指標4項目
①延べ宿泊者数 ②旅行消費額（消費額構成:旅行費用総額、来島交通費、宿泊費、飲食費、体験・アクティビティ費、土産物購入費、島内移動(レンタカー、タクシー、路線バス)費) ③来訪者満足度 ④リピーター率
●KPI 指標 観光庁指定の DMO サブ指標2項目
⑤WEBサイトのアクセス状況 ⑥住民満足度
●KPI 指標 上記以外の4項目
⑦推奨度(与論島を家族や友人知人に薦めるか?) ⑧原材料の地域内調達率 ⑨宿泊収容人数 ⑩観光協会会員数
与論島独自で設定するモニタリング指標
・環境関連のモニタリング指標：海水の水質、サンゴの生息状況
・文化関連のモニタリング指標：伝統文化を活用した観光コンテンツ数、イベント・年中行事の実施率
・観光産業の生産性向上のモニタリング指標：会員のデジタルマーケティングツール導入数

【KPI の数値】

指標項目	R3 年度[実績] (2021)	R4 年度目標 (2022)	R5 年度目標 (2023)	R6 年度目標 (2024)
①延べ宿泊者数	69.0(千人)	82.1(千人)	100.8(千人)	113.7(千人)
②旅行消費額(1人当たり)	45.4(千円)	48.2(千円)	49.6(千円)	51.0(千円)
③来訪者満足度	93.3(%)	95.0(%)	95.0(%)	95.0(%)
④リピーター率	26.5(%)	30.0(%)	30.0(%)	30.0(%)
⑤WEBサイトのアクセス状況	172(万PV)	210(万PV)	233(万PV)	256(万PV)
⑥住民満足度	未調査	調査実施予定	R4の調査をもとに設定	R4の調査をもとに設定
⑦推奨度	62.0(%)	64.0(%)	66.0(%)	68.0(%)
⑧原材料の地域内調達率	未調査	調査実施予定	R4の調査をもとに設定	R4の調査をもとに設定
⑨宿泊収容人数	684(人)	700(人)	710(人)	720(人)
⑩観光協会会員数	125(人)	130(人)	140(人)	150(人)

【KPI の算出根拠と算出方法】

- ① 延べ宿泊者数：与論島の入込客数に、(一社)ヨロン島観光協会の観光統計調査(宿帳データ収集)をもとに推計した毎年の平均泊数と係数(入込客数に対する観光客割合が 70%※)を使い
 $[\text{入込客数} \times 0.7 \times \text{平均泊数(年度別)}]$ にて算出。
 ※係数 0.7 は、入込客数の観光客割合としているが、(一社)ヨロン島観光協会の観光統計調査(宿帳データ収集)より精度の高い観光客割合を確認後は係数を見直す。
 <各年度で想定している平均泊数>
 ●R4 年度：2.3(人泊) ●R5 年度：2.4(人泊) ●R6 年度：2.5(人泊)
- ② 旅行消費額(1人当たり)：(一社)奄美群島観光物産協会の「奄美群島観光振興基礎調査」の与論島の回答数の 50%以上の回答が得られた支出項目を抽出し、その金額の合計を単価とし $[\text{単価} \times \text{入込客数} \times 0.7]$ で算出。
- ③ 来訪者満足度：(一社)奄美群島観光物産協会の「奄美群島観光振興基礎調査」の与論島の満足度の回答より、「大変満足・満足・やや満足」とした割合の合計。
- ④ リピーター率：(一社)奄美群島観光物産協会の「奄美群島観光振興基礎調査」の与論島の来島回数より「初来島」以外の回答の割合の合計。
- ⑤ WEBサイトのアクセス状況：(一社)ヨロン島観光協会の web サイトのページビューをもとに設定。
- ⑥ 住民満足度：与論島住民を対象とするアンケート調査にて把握。
- ⑦ 推奨度：(一社)奄美群島観光物産協会の「奄美群島観光振興基礎調査」の与論島の推奨意向より、「是非薦めたい」と回答した割合。
- ⑧ 原材料の地域内調達率：(一社)ヨロン島観光協会の会員(飲食店、宿泊施設)を対象に、アンケート調査により把握。
- ⑨ 宿泊収容人数：与論島の旅館業組合の会員を対象とするアンケート調査により把握。
- ⑩ 観光協会会員数：(一社)ヨロン島観光協会の会員数より把握。

(一社)ヨロン島観光協会は、令和 2 年度以降、宿泊者数等の各種の観光統計データの把握の取り組みを始めていますが、令和 2 年度、3 年度は、観光統計データにも新型コロナウイルス感染症の影響が見られるため、令和 4 年度はコロナ禍の影響を考慮し設定し、令和 5 年度以降はコロナ禍の状況を踏まえ設定します。また、正常時の与論島の観光が目指す数値目標は今後、新型コロナウイルス感染症の終息後、改めて設定するものとします。

(2) 与論島の観光客受入れ容量の考え方

与論島の持続可能な観光振興では、島としての適正な観光客の受入れ人数を考えていく必要があります。適正な観光客受入れ数について、UNWTO※²はキャリング・キャパシティとして「物理的、経済的、社会文化的環境を破壊することなく、また、訪問者が許容できないほど満足度を低下させることなく、1 か所のデスティネーションを同時に訪れることができる最大人数」と定義※³しています。

UNWTO によると、「訪問客と住民双方に等しく利益になるよう観光に適切に対応することは、観光部門にとって基本的な課題」、「観光は、訪問客と現地のコミュニティの両方を考慮しつつ開発、管理されて初めて持続可能なものとなる」、「それは地域社会の関与、混雑の管理、季節性の低減、収容力の限界と各デスティネーションの特性を考慮した入念な計画立案、商品の多様化によって達成することが可能」とされており、観光客数の増減を管理することは、島嶼地域の観光では特に大きな要点といえます。

国連の観光専門機関である UNWTO が提示しているキャリング・キャパシティの考え方を踏まえ、本計画の策定委員会では、与論町水道課および環境課の協力のもと、オーバーツーリズムを回避し持続可能な与論島の観光推進を目的に、島内の生活に直結する社会基盤容量の現状把握とその容量をもとにした観光客数の上限について検討を行いました。その結果を以下に示します。

【現在の水道、し尿、ごみ処理、電力の容量（与論町水道課、環境課の説明、九州電力ヒアリングより）】

●水道：（平成 10 年の計画認可当時の給水人口 6,152 人、計画1日最大給水量 3,600 m³）現在の浄水場の計画1日最大処理能力 3,300 m³ ・平成 28 年度～令和 3 年度の給水状況より、与論島の給水状況は 7、8 月の観光のトップシーズン以外に 10 月、1 月も計画処理能力の上限に迫る（一部、上限を超えた年度もある）状況が見られる。 ・夏季は水の生産がひっ迫するためプール等の給水を制限し、冬季は若干の余裕がある。通年の水量は大丈夫だが季節変動があり、現状の水量で夏季のピーク時の状況はかなり厳しい。 ・令和 2、3 年度の年間1日最大処理水量は 7 月に発生しており、両年とも約 3,200 m³/日となっている。 ・観光協会資料による与論島の入込客数は、34,358 人(R2 年)、41,578 人(R3 年)とコロナ禍にありながら増加傾向が見られ、今後のコロナ禍での経済活動の再開では、さらなる増加が予測される。
●ごみ処理能力（クリーンセンター）：年間 240 日稼働で最大処理能力 8t/日、1,920t/年 ・令和 2 年度のごみの総量を人口(5,090 人)で割ると1人1日 1,087kg のゴミが出ている。 ・令和 2 年度受入れ実績：ごみの総量 2,020t/年から資源化している段ボール 183t を減じたゴミ焼却量は 1,837t。ごみの総量 1,920t から 1,837t を減じた 83t が受入れ余剰量。 ・令和 2 年の観光客数 34,358 人をもとにごみ処理能力から算出した観光客の受入れ人数上限 $(2,020(t) - 1,837(t)) \times 1,000 / 1,087(kg) / 2 \text{泊(令和 2 年平均宿泊日数)} = 38,178 \text{人}$ $38,178(\text{人}) + 34,358(\text{人})(\text{令和 2 年入込客数}) = \underline{\underline{72,536 \text{人(現在のごみ処理能力上限人数)}}$
●し尿処理能力：年間 365 日稼働、6kℓ/日、2,190kℓ/年 （令和 5 年 3 月執行予定のし尿浄化槽汚泥処理施設の処理能力） ・令和 2 年度実績：1人1日 0.73ℓ、年間 1,348kℓ/人 ・し尿処理能力の上限から算出した入込客数上限は、令和 2 年平均宿泊日数 2 泊として、615,028 人。 施設の処理能力は 3 月の引越しシーズンに浄化槽から集めた汚泥が集中するため 6kℓ/日が必要。
●電力供給：（九州電力ヒアリング）島内2か所の発電所の合計で 10,010kw/日の電力共有が可能 ・2016～2020 年の平均実績：夏季のピーク時 5,000～5,500kw/日、冬季 3,000～4,000 kw/日 ・夏季の電力供給は猛暑等の気候に影響される。 ・供給量上限 10,010kw/日に対し、夏季のピーク時が 5,500 kw/日で余裕はある。

※2 UNWTO：国連の専門機関であり、誰もが参加できる持続可能な責任ある観光の促進に重要かつ中心的な役割を担う国際機関です。観光政策における国際的な課題や実践的な観光知識に関する交流の場としての役割を果たしています。UNWTO は 158 か国、6 地域、2 常任オブザーバーおよび 500 を超える賛助加盟員で構成されています。（国連世界観光機関駐日事務所サイト、「オーバーツーリズム（観光過剰）」都市観光の予測を超える成長に対する認識と対応 要旨より）
<https://unwto-ap.org/about/>

※3 キャリング・キャパシティの定義：UNWTO が作成している「オーバーツーリズム（観光過剰）」都市観光の予測を超える成長に対する認識と対応 要旨より抜粋。
https://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2019/11/overtourism_Ex_Summary_low-2.pdf

第5章 計画の実現へ向けて

5-1 検証方法

本計画の検証は、上位計画である与論町第6次総合振興計画の検証と同タイミングで実施します。現時点では、計画策定の2年後、5年後、7年後、10年後の2年-3年-2年-3年のスパンを予定しています。

検証では、計画中の各種の方針や項目の進捗状況の確認を行い、遅れているものや滞っているものは、その原因を確認したうえで改善策を検討し、状況によっては取組項目や実施作業等の見直しもあわせて行うものとします。

なお、計画策定時の令和4年3月現在は、新型コロナウイルス感染症が終息していないため、今後の終息状況や観光の復興状況を踏まえ、必要となる取組等についても検討や追加等の修正を行い、与論島の持続可能な観光地域づくりを進めます。

策定委員会で出た計画の実現に対する委員からは、以下の指摘がありました。

策定委員会からの意見

- ・アイデアを出すことは簡単だが、アイデア全部を実現しようとすると上手くいかない。
- ・アイデアの実現が一番困難なので、出たアイデアを絞り込み、優先度の高いものを決めて実施したほうが良い。

5-2 検証体制

本計画の検証体制は、計画策定時に設置した「与論町観光振興計画策定委員会」の委員および、各基本方針のもと取組項目や実施作業に係る島内の関係者等の参画もと、検証委員会を別途、設置して取り組むものとします。

■ 参考資料 ■

- d 専門家による支援(経営面のアドバイス、施設改修のアドバイス、集客のアドバイス等)
- e 補助金、助成金、公的支援制度等の事業に有利な情報入手や書類作成の支援
- f その他の支援()

Q5 ご自身の事業やご商売で困っている事や不安な事と相談先の有無をお教えてください。
(該当するものに○をご記入ください。)

困っている事、不安な事	困っていない	相談先あり	相談先なし
a 経営資金不足			
b 労働力不足			
c 後継者問題			
d 集客が困難			
e 施設設備の老朽化			
f 補助金等の情報収集が困難			
e デジタルの利活用方法			
f その他()			

ー 以下Q6～Q16は、この先10年間の与論島の観光を想定してご回答ください。ー

Q6 与論島の宿泊施設について課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの3つまで○をご記入ください。)

- a 宿泊施設不足 b 既存の宿泊施設の老朽化 c 宿泊料金の値上げをしづらい
- d 廃業した宿泊施設が再利用されていない e 労働力不足(繁忙期の働き手不足等)
- f 人材不足(良質な働き手を確保しづらい) g オンライン予約やクレジットカード決済の遅れ
- h 特に課題は無く宿泊品質も意識も現状のままでよい i 課題は分からない j その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q7 与論島の飲食店について課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの3つまで○をご記入ください。)

- a 飲食店の件数が少ない b 飲食店の種類が少なく飲食の選択肢が限定的
- c 昼間から夜まで通し営業している飲食店が少ない d 女性客向けの飲食店が少ない
- e 労働力不足(繁忙期の働き手不足等) f 人材不足(良質な働き手を確保しづらい)
- g デジタル対応(店のホームページ、SNS)やクレジットカード決済の遅れ
- h 特に課題は無く飲食の品質も意識も現状のままでよい i 課題は分からない j その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q8 与論島の与論島のマリンレジャーについて課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの3つまで○をご記入ください。)

- a 島内での情報提供不足 b 島外での情報提供不足 c インターネット上の情報提供不足
d オンライン予約やカード決済の遅れ e 同じ体験の価格統一等の事業者の連携不足
f 島内に住民票が無くトップシーズンだけ事業をしている業者がいる
g 特に課題は無く商品の品質も意識も現状のままでよい h 課題は分からない i その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q9 与論島の特産品・土産物について課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの3つまで○をご記入ください。)

- a 魅力的な特産品・土産物が少ない b 与論島らしい特産品・土産物が少ない
c 女性向けの特産品・土産物が少ない d 高品質で高価格帯の特産品・土産物が少ない
e 新たな商品開発が必要 f 既存の特産品のデザインやパッケージの魅力向上が必要
g インターネットを使った通販に対応していない h 土産物店のキャッシュカード決済の遅れ
i 特に課題は無く商品の品質も意識も現状のままでよい j 課題は分からない k その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q10 与論島の体験プログラムについて課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの3つまで○をご記入ください。)

- a 海のプログラムの充実化 b 陸域のプログラムの充実化
c 雨天でも楽しめるプログラムの充実化 d 早朝や夜間に楽しめるプログラムの充実化
e オフシーズンのプログラムの充実化 f オンライン予約やカード決済への対応
g 特に課題は無く体験の品質も意識も現状のままでよい h 課題は分からない i その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q11 与論島の域内交通(島内移動の交通)について課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの3つまで○をご記入ください。)

- a 空港や港から島内宿泊施設や市街地に行けるバスがあるとよい
b ワンコインバスや乗り合いタクシーのような機動性のよいバスがあるとよい
c 空港や港への宿泊施設の送迎の負担を軽減する輸送の仕組みがあるとよい
d 島内のレンタカーを増やしたほうがよい
e 電動キックボードや自転車等の環境にやさしい乗り物を増やしたほうがよい
f 特に課題は無く移動手段の質も種類も現状のままでよい g 課題は分からない h その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q12 与論島への来島手段について課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの3つまで○をご記入ください。)

- a 夏季の航空機の増便が必要 b 通年で航空機の増便が必要
c 大型機材(72人乗等)の導入が必要 d 午前中の到着便が必要 e 夕方の到着便が必要
f 特に課題は無く来島手段の質も種類も現状のままでよい g 課題は分からない h その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q13 景観や案内表示について課題と思う事やご意見をお教えてください。

(①～③それぞれで、該当するもの1つだけ○をご記入ください。)

- ①島内の道路や観光地の案内表示: a 足りないと思う b 多いと思う c 現状のままでよい
d 課題は分からない e その他()
- ②島内の街並みの景観: a 寂れているものは民間が改修したほうがよい
b 寂れているものは行政が改修したほうがよい c 寂れているものは撤去したほうがよい
d 部分的に整備しているミコノス島をイメージした景観デザインで島内を再整備したほうがよい
e 新しいデザインやテーマで島内の景観整備をやり直したほうがよい f 現状のままでよい
g 課題は分からない h その他()
- ③島内の海浜の景観: a 必要最小限の道路や植栽の整備をしたほうがよい
b 昔の海浜の風景を復元する整備ができるとよい c 欧米の海浜リゾートのような整備がよい
d 現状のままでよい e 課題は分からない f その他()

●①～③の課題解決のための方策

Q14 与論島の情報発信について、課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの3つまで○をご記入ください。)

- a インターネット情報(ホームページ、SNS、Youtube 動画等)の発信が必要
b 島外でマップやチラシ配布が必要 c 島内でマップやチラシ配布が必要
d 島外向のフリーペーパー配布が必要 e 島内向けのフリーペーパー配布が必要
f 雑誌やTV等のマスメディア露出の強化 g 航空会社等の交通機関とのコラボの強化
h 課題は分からない i その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q15 与論島のインフラ整備について、課題と思う事やご意見をお教えてください。

(課題と思うもの1つだけ○をご記入ください。)

- a 街なかの歩道整備が必要 b 観光スポットの遊歩道整備が必要 c 駐車場整備が必要

d 風景の良い場所の展望台や休憩場所の整備が必要 e 街なかの公園整備が必要
f 現状のままでよい g 課題は分からない h その他

●その他の意見、上記の課題解決のための方策

Q16 今後、与論島が目指すべき観光の方向性についてお教えてください。

(①～③それぞれの項目で、優先度の高いものを2つまで選び、✓をご記入ください。)

項 目	✓	具体策
①開発の方向性		a これまで以上に積極的なリゾート開発をすべき
		b 開発業者を選び、開発できる土地の広さを制限すべき
		c 乱開発にならない法制度などの整備をすべき
		d 島内で開発する場所と保護保全する場所を分けるべき
		e 今以上の開発はすべきではない
		f 開発の制度整備や制限等は行わず現状のままにすべき
		g その他()
②誘客すべき客層		a 島で享楽的に飲食や体験等の観光を楽しみたい客層
		b 島の地域経済をサポートする消費額の多い客層
		c 島の住民に敬意を払い、歴史や文化を大切にする客層
		d 海洋教育や環境保全等への意識が高い客層
		e 島の歴史文化や自然に対して学術的な興味が強い客層
		f 来島前 PCR 検査等を受けて安全面等にも責任を持つ客層
		g 長期間(1週間以上)滞在し、時間をかけて島を楽しむ客層
③与論島全体で 目指すべき 観光地像		h その他()
		a 沖縄のような大型のリゾート観光地を目指すべき
		b 民宿やゲストハウスで島民と交流できる従来の観光を維持すべき
		c 安い価格設定で来島者を増やし、マスツーリズムを推進すべき
		d 現在より消費額や客単価の高い高級リゾート観光地を目指すべき
		e 沖縄や奄美群島の広域観光ルートで周遊する観光地を目指すべき
		f 海の環境保全や歴史文化を重視する観光地を目指すべき
④与論島全体で 目指すべき 誘客方法		g その他()
		a コロナ禍以前のような大規模イベントを多数実施する誘客
		b 閑散期に小規模で長期的なイベントを数件実施する誘客
		c 交通機関(航空会社、フェリー会社)との旅行商品造成による誘客
		d 島内の体験プログラムを組み込んだ旅行商品造成による誘客
		e クチコミサイト(トリップアドバイザー、4トラベル等)を活用した誘客
		f 各種の SNS(Instagram、FB、youtube 等)を活用した誘客
		g 映画や TV 番組等のマスメディア露出による誘客

	h 島外企業や学校等の各団体と連携した研修やビジネス滞在等の誘客
	i その他()

Q17 令和4年の夏に開業予定の「(仮称)渚の交番」について、ご意見をお教えてください。

①施設の認知度 (該当するもの1つだけ○をご記入ください。)

a どのような施設なのか知っている b どのような施設なのか知らない c 施設に興味がない

②施設への期待 (該当するもの3つまで○をご記入ください。選択肢は次ページにもあります。)

a 観光振興に期待 b 観光の質的向上に期待 c 海の環境保全に期待 d 特産品の販売に期待

e 観光情報の新たな発信拠点として期待 f 新たな飲食の提供場所として期待

g 大金久の新たな観光拠点として期待 h 地域住民と観光客との交流の場として期待

i その他の期待点()

●「(仮称)渚の交番」に対するご意見、ご要望など

Q18 SDGs^{※1} の取組状況についてお教えてください。

(該当するもの1つだけ○をご記入ください。)

a 知っており自社業務の中で取り組んでいる b 知っているが特に取り組んでいない

c 名前は知っているがどういうものなのかは知らない d 知らないし聞いたこともない

e その他()

※1 SDGs 読み方はエス・ディー・ジー・ズ(Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)の頭文字を取った略称。2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的(ユニバーサル)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

外務省サイト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html> より一部抜粋

Q19 GSTC^{※2}による国際基準および推奨評価指標(GSTC-I、GSTC-D)についてお教えてください。

(該当するもの1つだけ○をご記入ください。)

a 知っており自社業務の中で取り組んでいる b 知っているが特に取り組んでいない

c 名前は知っているがどういうものなのかは知らない d 知らないし聞いたこともない

e その他()

※2 GSTC 読み方はジー・エス・ティー・シー(Global Sustainable Tourism Council/世界持続可能観光協議会)の頭文字を取った略称。GSTC は、持続可能な観光の推進と持続可能な観光の国際基準を作ることを目的に、2007 年に発足した国際非営利団体である。2008 年には観光産業向けの指標(GSTC-I: Global Sustainable Tourism Criteria for Industry)、2013 年には観光地向けの指標(GSTC-D: Global Sustainable Tourism Criteria for Destinations、2019 年 12 月に改訂を行い現在は GSTC Destination Criteria という名称(略称は GSTC-D のまま)となっている)を開発し、管理・普及活動を行っている。

国土交通省サイト <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350849.pdf> に掲載されている

「日本版 持続可能な観光ガイドライン」の

「2.「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」とは」の

(2)「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」のベースとなる国際指標GSTC-D

より一部抜粋

〔一社〕ヨロン島観光協会に対する意向

Q20 (一社)ヨロン島観光協会に対する信頼度を0～10の11段階でお教えてください。

(該当する数値に1つだけ○をご記入ください。)

信頼度最低										信頼度最高
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

Q21 (一社)ヨロン島観光協会が取り組んでいる事業の会員への貢献度を0～10の11段階でお教えてください。(該当する数値に1つだけ○をご記入ください。)

貢献度最低										貢献度最高
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

Q22 (一社)ヨロン島観光協会に実施してほしい観光振興策や解決してほしい観光の課題をご記入ください。

●(一社)ヨロン島観光協会の観光振興策に対するご意見、ご要望など

Q23 (一社)ヨロン島観光協会会員として協会に貢献できることがあればご記入ください。

●ご自身が会員として(一社)ヨロン島観光協会に貢献できる事など

与論町役場の観光振興策に対する意向

Q24 与論町役場が実施している観光振興に対する満足度を0～10の11段階でお教えてください。(該当する数値に1つだけ○をご記入ください。)

満足度最低										満足度最高
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

Q25 与論町役場に実施してほしい観光振興策や解決してほしい観光の課題をご記入ください。

●与論町役場の観光政策に対するご意見、ご要望など

Q26 ご自身の事業やご商売の満足度を0～10の11段階でお教えてください。
(該当する数値に1つだけ○をご記入ください。)

満足度最低										満足度最高
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

その他のご意見

Q27 与論町の観光に関するご意見があればご記入ください。(自由記述)

参考資料2

観光協会会員アンケートQ2以降の「その他」の自由記述一覧

2. 回答者の事業継続意向 その他の回答(自由記述)
オーナー判断による為
法人として持続可能な経営をめざして、人材育成を進めたい
今後どうなるかわからない
継続
後継者が継がなければ、廃業する予定
雇われなので解りません
3. 回答者の事業の今後の方向性 その他の回答(自由記述)
売上をのばしたい
現在の市場に限界を感じている。
収入は増やしたいがお客様が笑顔でいられる案内をしたい
継続
お客様の人数や売り上げを増やしたい
4. 回答者の事業に必要な支援 その他の回答(自由記述)
アルファベット語やカタカナの言語の理解に苦勞する
継続する
5. 回答者が事業で困っていること、不安なことと相談先の有無 その他の回答(自由記述)
海中宮殿等の通常人の行かない場所へビーチから泳いで行かれる方が後をたちません。やがて事故に繋がらないか懸念しています。地元やリゾバの方のボランティアガイドによる海の案内が増えているように思えます。保証や事故対応等に問題がないか懸念しています。観光協会あるいはエコツアーガイド連絡協議会が相談や協議が出来ると思います。
【レジャーやガイドの集客】HPの検索の際、観光協会や島内事業者よりも、外部の予約サイトが上位にヒットするため、予約時の手数料分が島外に流れてしまう
6. 与論島の宿泊施設で課題だと思うこと その他の回答(自由記述)
観光客と島民の観光に対する考え方のズレ
異業種の事まで答えられる内容でない。また、将来的な意見が欲しいなら、観光客から収集すると良し。
廃業、再利用の困難な宿泊施設が廃墟のまま放置され、景観的に悪い印象を与えている
上記の課題解決策
廃業した宿泊施設を管理人をおいて島宿学に使うとか 後継者問題 特に宿泊業早く考えないと（全員で）
滑走路を広げ、直接首都圏より来れるようになると、集客力が跳ね上がる事が予想される。与論の集客力が上がると、必然的に島内外より資金が流れ込むので、解決されると思われる
年間宿泊粗利の整理、マンスリーまたは定期貸家など住宅施設への転用の検討
施設での不利益部分の見直しと宿泊料金値上げ・過剰接待を控える・宿泊施設が行っている無料送迎を有料化、もしくは廃止し公共シャトルバス運用・老朽化している施設への設備投資
DMOを中心とした体制の強化
宿泊施設どうしの情報の共有
廃業した建物の改修後再利用。
廃業した宿泊施設の改修と再活用
30～40代の人口を増やし施設の共同運営をする。
上記回答は問題のようで与論のガラパゴス化を保つのに良い面でもあるかもしれませんが。必要を感じた個人が新規に施設を立ち上げているようですので自然に任せるのも一つかもしれません。
現状どうなのかという情報があまりない

与論のほとんどの宿泊施設の老朽化、高齢化は否めない。宿泊という形態に加え、島の住民、観光客のニーズを満たせる何か(例えばネットカフェなど)付加的なサービスが求められると考えている。シェアハウス形態をとっている宿も良い方法と思う。
老朽化または廃業した宿泊施設を補助金などで一部改修費を負担しつつ、新たに挑戦したい若者やUターン者に手軽にトライさせられるシステムづくり。
もっと移住者の意見を取り入れる
継続が難しい経営者と、これからやって見たい方々とのマッチング
観光客から収集
新しく宿泊施設を作るのではなく、既存の建物をうまく利用した形の宿泊施設ができればいいと思う。
島外からの働き手の募集
補助金を増やす
人材バンクや、研修生が常に島にたくさんいて働いてくれると嬉しい。
民間の頑張り
老朽化した建物について改修工事などの補助・融資など
・廃業施設の再利用を募集・再利用が困難なほど老朽化していて、台風時の2次災害など、危険な建物の解体を促す・その他、営業中の宿泊施設について、ワーケーションやリモートワーカーがPC作業しやすい机&イスの設置、Wi-Fi環境の整備・宿泊場所以外にも、机&イス、Wi-Fiがあるコワーキングスペースの整備
若い人が取り組む仕組み作り
資金援助などをして毎年、数件でも再建工事をする

7. 与論島の飲食店で課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

民宿人的不足の対応に宿泊のみにしたいが、朝食。夕食を外の食堂にしてもらいたい現状無しに等しい。朝食、夕食をやってもらえる所が2-3軒でもあれば、民宿の高齢化してきた”おかみさんは非常に助かりもう少しは民宿をと思っていると思いますが。飲食店の皆様に期待したい。
朝の開店時間が遅い
地産地消度合いが弱い。島特有の魚料理のことについて聞かれても、どこを案内して良いか迷う。
与論島を離れて随分と経つので、実情は把握出来ないのですが、ガイドマップやホームページを見ると飲食店も個性的なカフェ等も増えて魅力的になったのではないかと思います。
周りを海であるにもかかわらず地場産の海鮮物の料理がなかなかお目にかかれない気がします。
居酒屋が多すぎる
飲食店の精算のときにレシートが無く不安になることが多いと思う
異業種の事まで答えられる内容でない。また、将来的な意見が欲しいなら、観光客から収集すると良し。
メニューがいつも同じであること
付き合いで不味いメニューを置かないといけない。
上記の課題解決策
やはり、与論島内だけでビジネスをすると選択できる事柄が狭くなり消極的になりやすい。その為、与論に島外より人を集客する為の滑走路拡大等の利便性を良くする事により、直接的には観光業界や不動産、商店等にお金まわり、移住者等も呼びこめ税金収入も上がり、町として活性化の為の運営資金を上げる事ができる。与論島での利便性、並びに生活が豊かになる事で働き口が増えUターン、Iターンにも繋がるのではないかと。特に未来への可能性が高い若年層の定着に繋がると思われる。
島内利用者向けのサービス拡充
1年を通して多くの店舗を維持できるだけの消費人口がいないので店舗を過度に増やす方向ではなく、地場産の食べ物の加工と質の向上やハイシーズン限定で島外飲食店とコラボ店舗を出すなどの工夫はどうだろうか。
商工会等が旗振り役になり、地域料理や特産品開発を進めてほしい。また、地産地消に係わる組織体制の見える化。フードマイル運動への取組を進める。
他店との差別化
まずは魅力的な宿泊施設を増やすことで、観光客数を増やして需要を作ることが必要
長期の働き手を確保する事
顧客が何を求めるか？色んな意見を聞き反映する
安定した収益を望むなら、夜間の酒類提供であるため、どうしても新規参入は夜間の店が多い。昼間の食事処が少ない中で、空き家の改装補助などがあればもっと参入しやすくなる。
お弁当など、宿や屋外で食べられるテイクアウトの品質とバリエーション向上

顧客視点で島全体でのデザインを考える。島民のニーズと照らし合わせる。朝食、昼食、おやつ、夕食。時短営業になった際に、夕食時間が早くなりランチ以降のティータイムの事業者に大打撃があったと思う。
繁華街以外の飲食店誘致及び、会員同士の相互助け合いが必要だと思う。新規オープンしても観光客頼りだと続かない。地元の人が入らないと継続できない。
観光客から意見収集
島内外からの働き手の募集
与論の特産が食べれるお店マップが欲しい。例えばモリンガ麺だったら、〇〇店ではつけ麺になっている、〇〇店ではモリンガ明太が食べれるなど。ここといえば〇〇！みたいなお店が少ない。
既存店の掘り起こし、チャレンジしたい人への支援
人材について島全体のレベルアップ、島外からの求職者への斡旋、PR活動など
種類が少ないのでフード店をするための援助や他県からの移住とか専門店を作る

8. 与論島のマリンレジャーで課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

百合が浜への渡しでの複数業者による場所の独占。
新規に居住して開業していますが価格は上げる方向で頑張っています。皆さんも上げていかれたらどうかと思っています。浮力をつけずに楽しむスキndaイビングを奨励する立場ですが同時に海の使い方について懸念を抱いています。
顧客視点で、雨の日や晴れていても風や波が高くマリンアクティビティが出来なかった時のリカバリープランが少ない。
飲酒運転してる業者がいる
一般島民が観光客に声を掛け、海や島内を連れ回してる。
トラブルが多い業者がいる
乱立しているイメージ
・百合ヶ浜でのんびりとした雰囲気を満喫したい方も多いが、近くを水上バイクで大きな音や引き波を立てて通行することがある。
ショップを使わないシュノーケラーの安全性対策
上記の課題解決策
一度マリンレジャー開発者を一同に集め、マリンレジャーからのヨロン観光についての意見を聞いてみたい。
海の上にアスレチック型の大きな遊具施設を浮かべ、沢山の人が同時に遊べるようにしたら、良いのではないかな。
毎年船出し場所は抽選制にしては。島内の若い事業者が利益を得られない構造は早急に正すべき問題だと思います。
組織体制の強化及び、地域の特色を活かしたマリンスポーツ等の普及を小さい子どもたちを対象に進める。部活など。
他店との差別化
体験内容の閲覧や予約・決済が統一された、見やすいプラットフォームがあると観光客にとって利便性が上がる。
同業者の連携が必要
価格についてはサービス内容の違いもありますので一概に言えませんが全体に上げていくのはよいと思います。素潜りの普及による懸念についてはマリン事業者とは別にスキndaイビングの協議の出来るテーブルを持つのが良いかなと思っています。例えば「ロングフィン・アイランド」と銘打って、ロングフィンを持ち込む方は空港と港で登録を行い、海の使い方についてレクチャーを受けてから入島頂くような取り組み。その際にロングフィン基金を頂き、海中宮殿に次ぐ海底モニュメントの設置等、スキndaイビングが安全かつ特別に楽しめる島へと来島者と共に向かって行けるような取り組みができればいいですね。
情報提供
どれも同じようなサービスが多く見えるので、各業者の特長やサービス内容が差別化できるといいと思う
電動キックボードなど、マリン以外陸域のアクティビティに力を入れる
益々個人旅行が増えると思われる。その中でオンシーズンのみの営業ではなく会員通し連携しながら、例えばグラスポートのみでも年間通して案内できる分が今後は必要になると思う。
観光課及び観光協会が率先して、旅行会社などに営業かけて与論島をアピールしてください。与論島のお勧めは、マリンだけではありません。
現状がわからない
マリン事業組合があるのでその中で話し合う
ある程度のルール作りをして組合に入らないといけないみたいな制度。マナーの悪い業者が多いため。
営業許可制度を厳格化
事業者間の競争は必要だが、ある程度の島内の枠組みやルールを作り、ビーチや港などの美観や質を保つようにする

・エリア分けと事業者のマナーの向上(観光客の声の共有)・シュノーケルなどの際、アンカーの投げ降ろしによるサンゴなどの損傷(事業者への研修)
ビーチに看板をたてる

9. 与論島の特産品・土産物で課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

商品は与論島らしい魅力的な物が多いと思います。ただ一つご提案として、以前モズクを頂いた時、一つ一つの量が多くて家族が少ない家庭では一度に食べきれず困ることがありますので総量は同じでも、個食パックだと食べたい時に食べたいだけ使えるし、保存も簡単だし、人に分けるのも分けやすいかなと思います。
ばら撒き用の箱菓子が欲しい。
上記の課題解決策
既存の製品、新規製品が出た際は観光協会会員にチラシ配布で関係者が知らないで恥。
情報共有と企画アイデア創出のための交流会を新設
モリンガ麺などのように地道に開発を進めている事業者などへの開発支援と、漁協の特産品開発とインターネット販路開拓。そのために、食品表示法検定取得補助などを行い、パッケージ表示を正式な基準まで引き上げる必要があると思います。
町内におけるクリエイティブ人材の育成
特産品開発の専門家による講習会や指導
他地域の事例を参考に。特に既に島にあるもったいないものからプロデュースできるとベスト。(屋久島:猫用・トビウオのあごだしふりかけなど)
与論独自の定番商品を増やす事
与論島の魅力を発信するには重要な分野なので開発し続けなければならない
お土産が個人店舗で作っているものが多く、まとめて購入できる場所がないため、お客様としては買い物しにくいとのこと。
お土産とはなにか、特産品とはなにか、商品化する上でもっと真価を問うた方がいいと思う
特産品とお土産品の定義が不明確。与論島内でしか売れないのがお土産品で、与論島外でも品質が良く、高くとも売れるのが特産品。小ロットでも利益率の高い特産品を作るべきだと思う。
結果を求めるのが早いのでは。上手く行くまでの粘りも必要かと思う。
島で募集する
アイデアを発揮できる場所や、実際にかたちにする場所をつくる
継続して販売出来る特産品の開発や、パッケージ類のデザイン制を改良
島内での設備には限界があるので、お土産の生産者同士が共同で利用できる施設建設やパッケージなどのオーダー先を共有する また、魅力的な特産品を作ることへの金銭的なことや、PRなどの援助を枠組みとして作る
島内でも魅力的なデザイン・パッケージを制作している人もいますので、そうした方々に協力を依頼
個人だけでは無く島全体が潤う特産作り
島特有のお土産を開発しないと。

10. 与論島の体験プログラムで課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

Q10は、その他の回答は記述無し。課題解決策のみ記述あり。
上記の課題解決策
与論の強みは、海と星空となる。夜間に関しては、船を出し夜景や海からみる与論を紹介するのも良いのではないかな。その際、目印となるような各所に灯りは必要。
農業体験の事例を増やし、課題と新しいアイデアを見つけ出す 特産品から派生するワーケーションの実施
屋内体験プログラムを新たに作る。
クリエイティブ人材の育成、学校との連携
雨天やオフシーズンでも集客出来るような施設等の専用のマップを作成する。
夜の星空を百合ヶ浜でみる。冬のほうが夜に潮が引くのでできると思います。
雨天向け→水族館を与論島向けにアレンジした体験施設(水槽は小規模で珍しい魚が見れて、釣りもできて、その場で食べられるとか) オフシーズン:サウナは可能性あるかも(大分県豊後大野市は地域でサウナのまち宣言)
悪天候に対応できるプログラムが必要
夏の海中宮殿とは別に冬の海底モニュメントを南の海に設置したり、与論オリジナルオーダーウエットスーツ等、冬でも泳げるスタイルと冬場の長期宿泊をセットにした旅行を推して行けたらいいですね。漁協に入って冬場のスピアフィッシングの体験プログラムも開発したいです。

雨天やオフシーズンなど海に入れないシーズンにも海・百合が浜以外に楽しめる目玉が欲しい。【星空など】
雨の日のプログラムが圧倒的に不足。
体験プログラムの内容やシステムが、顧客のニーズを把握できているか疑問に感じる事が多いため、顧客ニーズに沿った体験プログラムやシステムをもっと積極的に参入させたり支援したりしたらいいと思う
エコツアーの充実。海だけではなくプロモーション活動の変更。
海以外のプログラムはこれから実践して結果を見せる事により希望者が増えて来ると思います。
屋内施設でお茶しながら地元の人とお話したり、三線聴いたりするような時間があってもいいと思う。また雨の日だからこそ映えるスポットを探してみてもいいかも。
冬期の企画が欲しい
雨の日の体験するのがなく お客様もする事がなく 室内で出来るプログラムが欲しい
いつでも気軽にお願ひできるガイドさんがいたり、陸遊びのメニュー一覧などが欲しい。
オフシーズンや雨天荒天時のアクティビティ施設を作るか、既存の文化施設を有効に活用し与論のことについて学んだり体験したりするプログラムを作る
与論の人の何割が体験プログラムを知っているのか？

11. 与論島の域内交通で課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

島内の交通機関としてタクシーがなくなると困るので補助金を出してほしい。
飲みに行くのが不便のようです。
回答内容がそのまま
島内の交通に関して注意事項などを観光客などに提供する
上記の課題解決策
旅行客目線で見ると、与論に来る際、事前に宿泊の予約をして来ると思われる。施設が送迎に来るので、問題ないと思うが、特に帰り等は早めに空港にきてゲートインするまでの時間、する事が無い観光客もいると思うので、空港に電動自転車等があり、少しの時間も最後の与論を見てまわれるようにすると、良いと思う。
島内で既存の交通機関との折衝。不可なら観光課などから新規事業として立ち上げる。
産官学連携して取り組む。観光だけの問題としてではなく、高齢者など交通弱者の視点を持って取り組む。実証実験エリアとして、国や企業、大学等に働きかける。
南陸運に頑張ってもらいたい。
運行台数を増やす
大型バスを各宿泊施設で共同運行できると嬉しい
夜の移動を増やした方がいいと思う。
夜のみバスのような夕方と深夜に回る乗り合いバスがあると良いのかな。
宿泊業者の方々の送迎が負担でなければ、今のスタイルは与論らしいといえれば与論らしい
各宿での送迎は時代にそぐわない。一括すべき。
宿泊施設を回るシャトルバスをワークシェアリングしたらいいのではないだろうか？
バス停からの2次交通の必要性
レンタカーがさらに増えて行く事が予想される。その際事業者にはマイクロバスを確保して頂いて空港＝営業所間の送迎並びにマイクロバスの貸出もして頂いたら面白い
コロナの影響でレンタカーの台数が減ったせいか、急遽レンタカーを予約しようとしても満車で借りれないといった状況も発生している。コロナ禍以前までの台数に戻す必要があるかどうかはわからないが、GoTo再開による観光客増の見込みもあるので、せめて現状よりは少し増やしていいと思う。
宿にいるバスを運転できる人が週に一回程度、交代で各場所におろすようなスタイル。報酬有り。
空港駐車場にレンタカー業者が無断で使用しているが、島民が駐車出来ず困っている。
空港や港から島内への公共交通機関があると便利だと思う。島民の交通ルールを守る意識を高めなければならないが、それと合わせて、レンタル関係や宿泊所などから来島者へ島内での交通上の注意点をアナウンスまたは資料として提供してはどうか。サトウキビで見にくいカーブや島民の一旦停止無視など…
観光客を乗せてお金を頂くシロタクシステムがあったら良いと思います

12. 与論島への来島手段で課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

船旅の魅力化
フェリー客が那覇で一泊しないと行けないのが惜しいですね。
船舶と飛行機の時間が重なり過ぎてて選択の余地がない

島民のための席確保が必要(通院や急用などのときに使えないことがある)
LCC導入出来れば◎
特に船の抜港問題
航空料金が高いのでオフシーズンなど補助等を行って年間を通して来島者を増やして欲しい
直行便
上記の課題解決方策
航空会社にとって、魅力的でないといけなないので、与論島への来島者を上げるか、航空会社の大口の株主になる等の方法くらいかと考える。
予算確保
議員さんががんばってください。
戦略的に進める。
商工観光課や観光協会からの増便の働きかけが必要
とにかく増便が必要。
勝手に言ってしまうと、那覇を深夜にフェリーが出れば、寝て起きて着いて、そのままアクティビティ業者が迎えてツアー参加した後に宿へチェックインだと、旅行者は一泊分宿泊費を与論での消費に充てられるかな。
船舶と飛行機の時間
フェリーも飛行機も昼に集中しているので、それプラス潮の時間によって、お客様の動きが決まっている。限定的。持続可能な観光地であるために、客層、客単価、人数の再設定が必要だと思う。
基本的に、沖縄＝与論間を便数が増えたら良いと思います。出来れば客の需要により、柔軟に増減便が出来るような仕組みが出来ると良いのだが。
与論島直航便があればいいと思う、大型宿泊施設も必要になるはず。
臨機応変な増便
最近お客様も戻りつつあるので 乗り継ぎ 午前、午後の便があった方が良くと思う
奄美や、沖縄からのLCCへの接続便 沖縄発着の大都市便への乗り継ぎ便に合わせた増便
毎日ではなくとも、週に何便かでも午前中に島に到着する便があるといいなと思う。抜港問題は、来島の手段としても問題だと思うが、台風時など飲食物不足の問題もあると思う。
今一度、空港の延長を検討すべき
船だと天候の影響が多く飛行機の便数があれば日帰り出来る

13. 与論島の景観や案内表示について課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

① 島内の道路や観光地の案内表示に関するその他の回答
googleマップ、スマホをもっと活用した方がいい
景観に合った色や素材など、エリアによってある程度の統一感が必要
② 島内の街並みの景観に関するその他の回答
景観条例を作り、それにあわせて修繕が必要な際は行政などから補助金が出るといい
エリア別にコンセプトを決めた方がいいと思う
老朽化など危険性のある建物は撤去した方がいい
③ 島内の海浜の景観に関するその他の回答
欧風の海岸と、現状の手付かずの海岸があるとよい
昔というのが、どれくらいのことをいい、それがどんな風景なのかわからないが、あまり人工的・近未来的な整備は好ましくないと思う

14. 与論島の情報発信で課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

観光協会のページの効果がわかりません。
スマホのアプリとして観光情報を得られりしたらどうだろう
紙資料が多い。ペーパーレスを進めて欲しい。既存動画の活用。デジタルマーケティングの必要性。
あえて発信しないのが良い
上記の課題解決方策
マップとはヨロンの位置の地図が現在来島者向けのガイドのことか？
航空会社への売り込み強化。
40代オーバーへ向けての魅力的な観光情報の発信

来島者への案内情報MAPはそろそろ改訂した方がよいのでは。QRコードを記載し、読み取りで店舗内装やメニューなど見れるHPへジャンプするとか。
人材不足
商工観光課と観光協会からの働きかけが必要。
インフルエンサーをうまく活用する。(費用対効果のシミュレーションは必須)
メディアへの露出を増やす。
アクセス解析レポート等を個別と全体で活用できるようにすると良いですね。
ネットはもちろんこれからも大切だが島内放送の音質の向上などや防災無線の利用法など改善できる課題はある。
紙での案内を見ているお客様は少ないので、もっとwebの情報に厚みを持たせるべき。
最近パンフレットを手取るより、所在地や予約や電話番号などスマホで情報を検索している観光客をよく見かけますので、スマホで情報が的確に取得しやすいようなインターフェイスになってほしいと思います。
誰にどんな広告を打つのか？ターゲットの明確化
ネットの活用
ネット発信のほか年配の方でも見れる冊子タイプも欲しい
やらせ告知をしているSNSが近頃多く、逆効果に感じる。来た人にしかわからないゆるさもあえて良いかもしれません。
情報発信にあたり、コロナと共存していくのか、トップの方針をはっきりしてほしい。
上記の専門分野の方や会社と一緒に活動したほうが良いと思う
従来の観光情報発信だけではなく、その地域資源を大切に守っていくための情報、普及啓発の要素も増やしていく
インスタ、YouTubeの活用

15. 与論島のインフラ整備で課題だと思うこと その他の回答(自由記述)

ロッカー施設がない
陽射しを逃れられるような屋根か何かある休憩場所が必要(特に真夏)
道沿いに花を増やして景観を良くする
屋台村など、多目的に使える広場があるといい
空港滑走路沿いのホワイトロードなど、趣のある道は残していくのが良いと思う
停止線をしっかりと記して欲しい。
上記の課題解決策
役場の跡地を人が集まれる公園にすれば良いのでは？
公園よりも、ただベンチだけがあるような広場が必要 キビ刈り前、特に9月～11月の道にはみ出すキビの対応をする
チェックアウト後の観光客の荷物をロッカーで預かる施設を観光協会近くや旧役場に作ってほしい。
他地域の事例を参考に、地域で景観美について考えるワークショップ等を開催して、報告書にまとめる。
役場に働きかけが必要。
行政でよろしくおねがいします
再活用不可の廃墟は取り壊しをする
観光名所に行くまでの砂利道の整備
危険な場所には注意の看板を
駐車スペースについて、戸惑う観光客が多い。
陽射しが強烈だということを知らずに来る観光客がほとんどなので、沢山焦げて人を見かけます。ビーチにしても、道端にしても、もう少し陽射しから逃れられる場所もしくは貸し出しする何かがあるといいのかな？と思います。
役場跡地の有効活用
昔の風景を残す。再現。
海岸沿いの歩道や展望場所を増やす
移動手段により駐車スペースが必要になると思う。
市街地の駐車場整備や案内看板の設置、観光スポットの生え放題の植物等の手入れ
停止線を引く
歩道ですが駐車場整備が優先 路駐が厳しくなり罰金になったら最悪です

16. 与論島が目指すべき観光の方向性 その他の回答(自由記述)

① 開発の方向性に関するその他の回答

Q16-①は、その他の回答、課題解決方策ともに記述無し。

② 誘客すべき客層に関するその他の回答

Q16-②は、その他の回答、課題解決方策ともに記述無し。

③ 与論島全体で目指すべき観光地像に関するその他の回答

リモートワークが普及したので、仕事しながら観光できるイメージ作りをしてみてもいい。

統一する必要はないと思う

沖縄、九州、奄美との差別化

島全体で消費して貰って島としての客単価を上げる方策

新規顧客よりリピーターを増やす

④ 与論島全体で目指すべき誘客方法に関するその他の回答

島の人が楽しみ幸せに生きる。それを体験目的に来る観光客がいたら良い

17. 令和4年の夏に開業予定の「(仮称)渚の交番」について その他の回答(自由記述)

① 施設の認知度に関するその他の回答

Q17-①は、その他の回答、課題解決方策ともに記述無し。

② 施設への期待に関するその他の回答

初めて存在を知った。

大きな施設ができるのはこの先何年後になるかわからないので、今の島全体に必要なニーズを満たせるような要素を盛り込んで欲しい。

知らないのでもなんとも言えない

大他にもビーチがあるので大金久だけを盛り上げるのはどうかと思う

島民の憩いの場、島のこどもたちの遊び(休憩)の場

18. 回答者のSDGsの取組状況 その他の回答(自由記述)

Q18は、その他の回答、課題解決方策ともに記述無し。

19. 回答者のGSTCによる国際基準、推奨評価指標(GSTC-I、D)の認知度 その他の回答(自由記述)

Q19は、その他の回答、課題解決方策ともに記述無し。

参考資料3

与論町観光振興計画策定委員会 委員名簿

委員名	所 属	備考
山下 哲博	(一社)ヨロン島観光協会会長	委員長
宿泊・交通分科会		
本園 秀幸	(一社)ヨロン島観光協会副会長	分科会長
内野 正世	ヨロン島ビレッジ	
川畑 将一朗	青海荘、旅館業組合長	
南 有隆	南陸運(株)	
田畑 吉秋	南国レンタカー	
テイラー マイク	プリシアリゾートヨロン・総支配人	
飲食・特産品分科会		
有村 晃治	(一社)ヨロン島観光協会副会長	分科会長
竹内 和美	居酒屋ひょうきん	
村上 由季	くじらカフェ、飲食店組合副会長	
原 令	エイトク産業	
白尾 元彦	サンコーラル	
沖 隆寿	カスタネット商店、商工会青年部副部長	
アクティビティ・体験分科会		
川畑 充男	(一社)ヨロン島観光協会副会長	分科会長
川畑 こず枝	エコツアーガイド	
池田 龍介	SUPヨロン、エコツアーガイド	
菊 凜太郎	与論民俗村	
池田 剛	NPO法人ヨロンスポーツクラブ	
南 和彦	シーマンズクラブ、マリン事業組合長	
田畑 香織	まなび島代表	
事務局	所 属	備考
麓 誘市郎	与論町 商工観光課	
山 眞實	与論町 総務企画課	
町岡 安博	(一社)ヨロン島観光協会 事務局長	
里山 剛史	(一社)ヨロン島観光協会 次長	
柳田 真希	(一社)ヨロン島観光協会 DMO担当	
小池 利佳	株式会社奄美群島環境文化総合研究所	

与論町観光振興計画 計画書

令和4年3月

策定主体：一般社団法人ヨロン島観光協会

策定支援：株式会社奄美群島環境文化総合研究所



ヨロニ PANA URU 王国